

寫

昭和十九年十二月三十一日

南方開發金庫

比島支金庫長 川村正一

第十四方面軍司令官閣下

當支金庫保有ノ軍票中左記小額及損傷券ハ戦局ノ狀況ニ應ジ燒却又ハ適宜
破棄致度候ニ付テハ御許可賜ハリ度此段及御願候也

記

保管場所	金種	金額
マニラ市ファンルナ街 南方開發金庫内	一〇〇比 (損傷券)	三、〇〇〇、〇〇〇比
マニラ市ファンルナ街 南方開發金庫内	一〇比	二二、五二〇、四九〇比
	五比	一九、九九七、三四〇比
	一比	一一、四八一、四六五比

マニラ市ファンルナ街 臺灣銀行内	五拾仙	一三、八一五、九五〇
	拾仙	七、一四四、六三三
	五仙	三、九八九、二二四
	壹仙	二、〇八六、四四七
計		八四、〇三五、五五〇
マニラ市ファンルナ街 電政局内	五仙	二、一〇〇、五〇〇
	一仙	三六八、七〇〇
マニラ市ファンルナ街 比島運輸部内	計	二、四七九、二〇〇
	十仙	一、六〇〇、〇〇〇
	十仙	二、〇八〇、〇〇〇
	五比 (損傷券)	一八〇、〇〇〇
	一比	一、二二八、〇〇〇
	五十仙	一、〇〇七、〇〇〇
	十仙	七二八、二〇〇



マニラ市イントロムロス	五十仙	計	一七五、二〇〇・一
野戦郵便所内	十仙	計	三七、〇四〇・一
野戦郵便所内	五仙	計	五、四二五、四四〇・一
野戦郵便所内	壹仙	計	二〇、〇〇〇・一
野戦郵便所内	十仙	計	二、〇一六、〇〇〇・一
野戦郵便所内	五仙	計	二、八三二、〇〇〇・一
野戦郵便所内	壹仙	計	一、七六四、六〇〇・一
野戦郵便所内	計	計	六、六三二、六〇〇・一
マニラ市アヌカラガ街	一〇〇比	計	一七、三〇〇、〇〇〇・一
陸軍刑務所内	一〇比	計	三二、五〇〇、〇〇〇・一
陸軍刑務所内	五十仙	計	一、七五〇、〇〇〇・一
陸軍刑務所内	計	計	五〇、五五〇、〇〇〇・一
マニラ市ファンルナ街	一〇盾	計	一五〇、七二二、七九〇、七二二
南方開發金庫内	一〇盾	計	二四、七五五、一六〇、〇〇〇

マニラ市ファンルナ街	五十盾	計	一一、五六八、一七〇、〇〇〇
南方開發金庫	一盾	計	五、〇八六、四四七、〇〇〇
南方開發金庫	五十仙	計	一、一六〇、四五四、〇〇〇
南方開發金庫	十仙	計	八五三、一三七、八〇〇
マニラ市ファンルナ街	五仙	計	四〇二、五三四、五〇〇
南方開發金庫	一仙	計	一〇八、一四五、五二〇
マニラ市イントロムロス	五十仙	計	四三、九三四、〇四八、八二〇
野戦郵便所内	十仙	計	八八〇、〇〇〇、〇〇〇
野戦郵便所内	五仙	計	六七二、〇〇〇、〇〇〇
野戦郵便所内	一仙	計	六五一、〇〇〇、〇〇〇
野戦郵便所内	計	計	四二一、八〇〇、〇〇〇
野戦郵便所内	計	計	二、六二四、八〇〇、〇〇〇
野戦郵便所内	計	計	四六、五五八、八四八、八二二





南東銀行(五等) 謹

昭和二十年五月十一日

南方開發金庫

券部長 橋本 勝

大東亞省南方事務局

鈴木 經濟課長 殿

見本券送附ノ件

比島製造ノ緊急南方開發金庫券係號千圓券及百圓券見本各壹枚茲許同封御送附申上候間御查收相成展候也

南方開發金庫

昭和二十年六月十一日

大東亞省地方事務局
産業經濟課長 鈴木政勝 啓

横濱正金銀行頭取席
海外部長 廣田藤四郎

并 啓

并ハンマイ派出所開設ノ件

陳者自題ハンマイ派出所六月一日開店致候間御報告申上候向營業所々在地明
細判明次第御通知申上候

敬 具

(横濱正金銀行)

大東亞省南方事務局長殿
江若木 江若木

南政機密才一四三号

昭和二十年六月四日

海軍省南方政務部長



寫

台湾 銀行南方部長殿

出張所移轉ニ関スル件照會

首題ノ件左記ニ依リ取計相成交

追テ移轉完了ノ上ハ報告相成交

記

一 移轉出張所 「チモール島」
「スバ」島ニ出張所

二 移轉先 「スバ」島ニ
可及的早急

三 時期 移轉諸要務ニ付テハ現地軍政機関ト連絡

海軍

昭和二十年六月五日

ノコト

大藏省台湾銀行監督殿

字送付先 日本銀行 南方開発金庫

大東亞省南方事務局

(終)

海軍

南發業第〇一八号

昭和二十年六月廿日

南方開發基金

業務部長

藤松正憲

大東亞省南方事務局

經濟課長 殿

当基金之月未融資金額、流入金、至存券券額、均
現在公表(概収)所参考、迄、茲、詳、以、送、付、上、外、同、
以、查、收、被、貸、以、方、也、

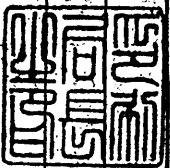
庫金發開方南

(東京400)

第廿九號

昭和二十年六月十二日

印刷局長



大東亞省南方事務局長 殿

南方券引取ニ關スル件

標記ノ件ニ付テハ昭和二十年五月十二日附テ以テ及御依頼候處當局トシテハ速急ニ引渡サテシ度事情有之候條左記製品引取ニ關シ至急何分ノ御配慮賜度重而及御照會候
追而引取遲延ノ爲ノ殿災ニ罹リ損失セル製品ニ付テハ更メテ御了承ヲ得タル上夫々納入告知書ヲ發行スルコト、致度申添候

藤野川工場在庫分

券種 数量(單位万枚)

大日本帝國政府

(圖記) 藤野川工場

大日本帝國政府

泰國紙幣百 銖 券	七四・七
五拾サタン 券	九二〇・〇
細 銀壹圓 券	二、一〇七・〇
は號南方壹千圓券	二六一・〇
壹圓券	三六〇・〇
に號南方壹千圓券	三七六・〇
拾圓券	二・〇
壹圓券	四六・〇
は號南方百圓券	六二八・〇
壹圓券	三八〇・〇
静岡工場在庫分	
券種	數量(單位万枚)
泰國紙幣壹 銖 券	二六五・五

大日本帝國政府

改造紙幣兌換券

五銖券

四六七・〇

一九二・七

以上

（國定規格）

研-0618

0140

2025 (2025.6.15)

皇紀二千五百〇五號

昭和二十年五月三十一日



大東亞大臣 東郷 茂徳 殿



外務省
木 隆 一

外資金庫預ケ金ニ關スル件

昭和二十年三月一日附當金庫ト外資金庫トノ間ニ締結セル預金契約書ニ基キ昭和二十年五月三十一日同金庫ニ對シ金五億圓也種人統候間此致及御報告候也

回覽

法務省附録



木 隆 一



南發發行〇五第ニ〇號

昭和二十年六月八日

南方開發金庫

發券部長 橋本



南方事務局産業經濟課

鈴木課長 殿

比島支金庫保有ノ當金庫券中小額券及損傷券ノ燒却方ニ關シ別紙寫ノ通り軍ニ願入候趣同支金庫長ヨリ報告有之候ニ付不取敢御參考迄
供高覽候也

南方開發金庫

研-0618

0142

南發發行〇五第ノハノ號

昭和二十年六月七日

南方開發金庫

證券部長 橋本



大東亞省南方事務局

鈴木課長殿

ヌマトラニ於ケル未發行金庫券寄託ニ關スル件

ヌマトラ支金庫長ヨリ別電(甲)ノ通り同地正金支店ニ對スル未發行券寄託契約ニ關聯シ戰災・天災・暴動・匪賊・テロ行爲等ニ依リ發生セル發行元金庫券ノ損失ニ係ル國家補償ニ付照會有之候ニ付別電(乙)ノ通り回答致置候間右御了承被成下度此段御報告奉々得貴候也

南方開發金庫



スマトラ支金庫長宛證券部長電信 (六月五日發電)

前文省略

金庫所有金庫券ノ戦災損失ニ付テハ政府保有命令ニ依ル損失補償ヲ受クルコトナク抛給損失補償ヲ考慮スルコトニ當局了解濟ニシテ暴動・匪賊等ノ場合ハ戦災ニ準シ取扱ハルモノト思考サルルモ其他ノ場合ハ發生事情ニ基キ個々ニ審議決定サレルモノト認メラルル何レニセヨ之等ノ未ダ方針決定セルモノニ非ザルニ付先電ノ如ク寄託券保管場所ノ狀況ニ照シ適宜損害保険ヲ附サレ履

心算ノ未ダ決定スル事由ニ因リ損失補償ノ決定ニ於テモ以テ通電ト照科スルハ爲念及長官指示ノカキ也 此ニテ

南方開發金庫



證券部長宛スマトラ支金庫長電信 (五月十八日着電)

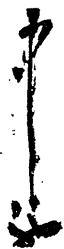
前文省略

弊電二五ニ列舉セル事故ニヨリ發生セル損失ニ付テハ南亞ハ國家補償ヲ受ケ得ルヤ何レニセヨ右各種免責約款ヲ認メザル限り正金ハ保管ヲ承諾セス從ツテ當局ノ分散命令實行不可能トナルニ付至急指示アリ展

電二五ニ列舉セル事項

戰災、天災、暴動、匪賊、テロ行為並ニ金庫設備ナキ店舗ニ於ケル盜難

南方開發金庫



(五月八日發電) (一)二十年度ヨリ預金増強目標五億弗、内正金割當二三
 三、八〇〇千弗ト決定 (二)三月末市中銀行一般預金殘四、八六二、九〇千弗内
 正金二、一六四、七千弗 (三)十九年度損害保険料收入普通一、二百萬弗、戰
 争六百萬弗

(五月卅日發電) 印度支那向送金取締規則發令、下記以外ノ佛印向送金
 並ニ通貨携帶ハ許可ヲ要ス

(一)軍ノ送金 (二)軍ヨリ支給サレタ俸給、手當又ハ賞與等ヲ野戰郵便所ヲ
 通ジ送金ノ場合 (三)軍人、一般人ガ旅費及滞在費トシテ二百弗相違額以下ノ送
 金ヲナス場合 (四)軍人、軍屬ガ南渡券又ハ佛印通貨ヲ携帶スル場合 (五)
 一般人ガ百弗相當額以下ノ右通貨ヲ携帶スル場合

(五月卅一日發電) (一)郵便貯金四月末殘二、四六八、六千弗 (二)戰局深刻化
 卜輸送益々困難ヲ加ヘ米ヲ中心ニ諸物價昂騰

米四二弗 (一斤) 豚肉 (一斤) 一二〇弗、砂糖 (一斤) 五〇弗
 綿布 (一ヤード) 三〇〇弗、自轉車 (一臺) 九〇〇弗

(六月十二日發電) (一)マライ銀行勸定四月末、一般預金五〇、六百萬弗、
 貸出四五、九百萬弗 (二)昭南市第一回簡閱點呼施行セラル (三)當店ナシ、ロ
 一、下出張員事務所十八日開店豫定、預送金出納事務取扱諸相場金一
 五、五〇〇弗、舊弗二、六〇〇弗 (但一〇弗以下一、二〇〇弗)、盾三、六五
 弗、銖一、五四〇弗、(情報一號參照ノコト)

ジャカルタ

(五月十二日發電) 南發ノ對銀行貸出金利改訂四月一日ニ廻リ實施 (一)貸
 出ガ一般預金範圍ナル時ハ三ヶ月以内年三分半ヲ超ユレモノ年四分
 (二)貸出ガ一般預金ヲ超過スル場合一ヶ月迄年三分半、六ヶ月迄年四分其以上四分半

フキチンギ

(五月廿八日發電) 本年度スマトラ一般預金増加目標額一七〇百萬弗、
 (内當行一〇、九五百萬弗)ト決定、尙昨年度目標額八、五百萬弗 (内當
 行六、七百萬弗)ニシテ實績七〇百萬弗 (内當行五〇百萬弗)

白米 一、五〇〇盾
 砂糖 一、五〇〇盾
 煙草 七、五〇〇盾
 ヲキチンギ 一、〇八〇盾
 バタン 一、五四〇盾
 バレンバン 二、六二五盾
 二〇〇盾

蘭 貢

(五月卅一日昭南發電) 四月七日附蘭支店報告、謀略宣傳、宣撫品給
 與等ニヨリ民心把握致シ居リ特ニ對軍票施政ニハ慎重ヲ期シ居ルモノ
 ノ如シ (一)軍票ノ使用ヲ禁止シ居ル地區ナシ (二)各地區其比率ヲ異ニシ居
 ルモ軍票一〇〇ニ對シ五〇乃至二〇ノ率 (三)當局調一ヲ以テ金額ヲ捺印
 シ使用ヲ認ム (四)但小額券ハ各地區共使用禁止
 右ニ拘ラズ在來通貨當地閻值軍票ノ十二倍見當



乙 地域 西 貢

(五月廿七日發電)「ビルマ」ヨリ後退ノ一般入携帶留比券處置ニ關シ

占領地域並ニ泰、佛印各當局へ指令アリ

(一) 一定額以上ノ留比券ハ金融機關ニ預入セシメ留比建替別預金トス、

特當並利息ヲ加算ス

(二) 右預金ハ左ノ場合ノ外引出交換ヲ認メズ

(イ) 生活費(一定額)ノ爲(四)非常時内地並ニ留比貨預金(限度一萬留

比)トナス爲

(三) 後退地ニ於ケル專業資金ニハ右預金使用ヲ認メズ別途調達セシム

註、佛印當局ノ指示ニヨレバ(一)ノ一定額以上トハ自巳ノ支度金(一五

〇留比)及第一月生活費(四〇〇留比)ヲ除ク全額ヲ、此ノ範圍

ノ交換ハ認メルガ第二月以降ノ生活費ヲ預金ヨリ引出交換スル事

ハ病氣等ノ爲就職困難ニシテ特ニ當局ノ許可ヲ受ケタモノニ限ル

(但シ三〇〇留比)

河 内

(六月十六日發電)諸相場、人絹糸一〇二〇〇比弗、スフ糸九〇〇〇比弗

綿布一〇〇〇比弗、米四二〇比弗、(單位第一號參照)

註、米價下落ハ西貢米到着ニヨル

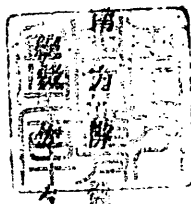


2026
昭和三十二年六月十五日
南

昭和三十二年五月三十一日
昭和三十二年六月十五日
昭和三十二年六月十五日
昭和三十二年六月十五日



大東亞大臣 東郷茂徳殿



水島一郎

外資金庫預ケ金ニ關スル件

昭和三十二年三月一日附當金庫ト外資金庫トノ間ニ締結セル預金取約書ニ基キ昭和三十二年五月二十五日同金庫ニ對シ金五億圓也預入徴納局此後及御報告也

南方情報第二號
甲地域

橫濱正金銀行頭取庶務部

昭 南

(五月八日發電) (一)二十年度ヨリ預金増強目標五億弗、内正金割當二三
 三、八〇〇千弗ト決定 (二)三月末市中銀行一般預金總額四、六二九〇千弗内
 正金二、一六四、七七千弗 (三)十九年度損算保險料收入普通一、二百萬弗、戰
 争六百萬弗
 (五月卅日發電) 印度支那向送金取締規則發令、下記以外ノ佛印向送金
 並ニ通貨携帶ハ許可ヲ要ス
 (一)軍ノ送金 (二)軍ヨリ支給サレタ俸給、手当又ハ賞與等ヲ野戰郵便所
 通シ送金ノ場合 (三)一般人ガ旅費及滞在費トシテ二百弗相當額以下ノ送
 金ヲナス場合 (四)軍人、軍屬ガ南發券又ハ佛印通貨ヲ携帶スル場合 (五)
 一般人ガ百弗相當額以下ノ存通貨ヲ携帶スル場合
 (五月卅一日發電) (一)郵貯金四月末殘二、四六八、六千弗 (二)戰局觀察刻化
 卜輸送益々困難ヲ加ヘ米ヲ中心ニ諸物價昂騰
 米四二弗 (一斤) 豚肉 (一斤) 一二〇弗、砂糖 (一斤) 五〇弗
 綿布 (一ヤード) 三〇〇弗、自轉車 (一臺) 九〇〇弗
 (六月十二日發電) (一)マライ銀行勘定四月末、一般預金五、〇六百萬弗、
 貸出四五、九百萬弗 (二)昭南市第一回簡閱點呼施行セラル (三)管店ナシムロ
 一、下出張員事務所十八日開店豫定、預送金出納事務取扱、諸相場金一
 五、五〇〇弗、舊弗三、六〇〇弗 (但一〇弗以下、二〇〇弗)、盾三、六五
 弗、銖一、五四〇弗、(情報一號參照ノコト)

ジャカルタ

(五月十二日發電) 南發ノ對銀行貸出金利改訂四月一日ニ週リ實施 (一)貸
 出ガ一般預金範圍ナル時ハ三ヶ月以内年三分半、超ユルモノ年四分
 (二)貸出ガ一般預金ヲ超過スル場合一ヶ月迄年三分半、六ヶ月迄年四分其以上四分半
 フキチンギ

(五月廿八日發電) 本年度スマトラ一般預金増加目標額一七〇百萬弗、
 (内當行一〇、九百萬弗)ト決定、尙昨年度目標額八、五百萬弗 (内當
 行六、七百萬弗)ニシテ實績七〇百萬弗 (内當行五〇百萬弗)
 (六月十二日發電) 五月末物價
 白米 一、〇八〇盾 バタン、五、四〇〇盾 (バレンバン) 二、六二五盾
 砂糖 一、二五盾
 煙草 七、五〇盾 ヨリハ盾見當 (單位情報一號參照)

蘭 貢

(五月卅一日昭南發電) 四月七日附蘭賣店報告、謀略宣傳、宣撫品給
 與等ニヨリ民心把握致シ居リ特ニ對軍票施政ニハ慎重ヲ期シ居ルモノ
 ノ如シ (一)軍票ノ使用ヲ禁止シ居ル地區ナシ (二)各地區其比率ヲ異ニシ居
 ルモ軍票一〇〇ニ對シ五〇乃至二〇ノ率 (當局調)ヲ以テ金額ヲ捺印
 シ使用ヲ認ム (三)但小額券ハ各地區共使用禁止
 右ニ拘ラズ在來通貨當地關值軍票ノ十二倍見當



乙地域 西貢

(五月廿七日發電)「ビルマ」ヨリ後退ノ一般人携帶留比券處置ニ關シ

占領地域並ニ泰、佛印各當局へ指令アリ

(一)一定額以上ノ留比券ハ金融機關ニ預入シメ留比建特別預金トス、

特當並利息ヲ加算ス

(二)右預金ハ左ノ場合ノ外引出交換ヲ認メズ

(イ)生活費(一定額)ノ爲(四)非常時内地並ニ留比預金(限度一萬留

比)トナス爲

(三)後退地ニ於ケル事業資金ニハ右預金使用ヲ認メズ別途調達セシム

佛印當局ノ指示ニヨレバ(一)一定額以上トハ自己ノ交度金(一五

〇留比)及第一月生活費(四〇〇留比)ヲ除ク金額デ、此ノ範圍

ノ交換ハ認メルガ第二月以降ノ生活費ヲ預金ヨリ引出交換スル事

ハ病氣等ノ爲就職困難ニシテ特ニ當局ノ許可ヲ受ケタモノニ限ル

(但シ三〇〇留比)

河内

(六月十六日發電)諸相場、人絹糸一〇二〇〇比弗、スフ糸九〇〇〇比弗

綿布一〇〇〇比弗、米四二〇比弗、(單位第一號參照)

註、米價下落ハ西貢米到着ニヨル

(了)



昭和二十年五月十日

東京都 橋区京橋二丁目八番地

昭和護謨株式会社

生産責任者 岩田喜雄

取締役社長



大東亜南洋 産業課

殿

會社通稱号使用ニ関スル件

今般関東軍需監理部長殿ヨリノ通牒ニヨリ本年五月十日以降弊社ノ名稱ヲ

左記ノ通り呼稱致スコトニ相成候 就而今後弊社ニ對スル電信電話郵便

等各種通信連絡ニハ勿論各種文書記載ニモ必ず左記通稱御使用被下度御願

申上候

記

通稱名 皇國第一〇九本社

並而本書ハ御處理ノ上 嚴禁保管又ハ焼却願度候

尚弊社ノ任工場ハ「皇國第一二三五工場」ニ存之

為念申添候

以上



昭和二十年六月十九日

大東亜南洋支那事務局
支那支隊隊長鈴木政勝殿

國策正金銀行
海外部

拜啓
貴行奉命印各店三於九金線水況可報告件

陳者貴行奉命印各店三於九金線水況可報告件
左記印報告中上候
敬具

盤谷之店四月六日現在(單位十銖)

(1) 資産関係
現金手許有島 一七、四〇〇
預託金或島 一四、二八六
輸出前分或島 一八、四〇〇
当座貸入分或島 三五、三三三
軍費貸与島 九、八〇〇

(2) 負債関係
軍預金或島 一〇、五一一四
海軍分 五、五九八
一般預金或島 三、〇〇〇
第三年売与島 四、〇〇〇
公債借付或島 六、九九一
左借付

五月二十日現在

(1) 資産関係

現金手許有島 一七、二七一
預託金或島 一三、三九九
輸出前分或島 二〇、〇〇〇
当座貸入分或島 三三、三一一
軍費貸与島 四、八〇〇

(2) 負債関係

軍預金或島 一〇、五一一四
海軍分 一、七八六
一般預金或島 三、二八九
第三年売与島 四、〇〇〇
公債借付或島 四、一三二
左借付

尚自本月分五月十日分金十者三行在候

西貢内海防支店分

西貢内海防支店分
六月十日現在
現金手許有島 一五、九二一
預託金或島 一、九一三〇
輸出前分或島 一、九〇一一
当座貸入分或島 一、九〇一一
軍費貸与島 一、九〇一一
特別外島 一、九〇一一

(横濱正金銀行)

案

指合前在昭和三十九年

南才年於空海

昭和二十年六月十日附南才友の。且、案ニ五部

以下申請ニ係ル東京證券印刷株式會社ニ寄託中

ノ証券書類却、仲、認、可、ス

昭和二十年六月

大東亜大佐

(起案用紙三號ノ二)

規格-B5 (東京489)

研-0618



南産臨28号
20.6.20.

南發發行〇五第ニハ 號

昭和二十年六月十八日

南方開發金庫

總裁 佐々木 謙一郎



大東亞大臣 東郷茂徳殿

田 覽

東京證券印刷株式會社ニ寄託中ノ金庫券銷却ノ件

當金庫方東京證券印刷株式會社ニ寄託中ノ金庫券左記ノ通り銷却金庫券ニ組入候間南方開發金庫券及南方開發金庫鑄貨製造發行引換及銷却手續第十七條ニ依リ此段及屆出候也
御届出候也

記

一、銷却事由 當金庫方東京證券印刷株式會社ニ寄託中ノ金庫券ハ四月十三日ノ空襲ニ依リ同社保管現場ニ於テ全額燒

南方開發金庫



失ニルニ依ル

一、銷却場所 東京都王子區 谷町一丁目四八二番地 東京證券印刷株式會社

一、銷却時期 昭和二十年 六月十五日

一、銷却金庫券 〇號五段券 七〇、一五〇、〇〇〇枚

以上

南方開發金庫

南發發行〇五第ニハ號

昭和二十年六月十八日

南方開發金庫

總裁 佐々木 謙一郎



大東亞大臣 東郷茂徳 殿

共同印刷株式會社ニ寄託中ノ金庫券銷却事件

當金庫方共同印刷株式會社ニ寄託中ノ金庫券宛記ノ通り銷却金庫券
ニ組入候間南方開發金庫券及南方開發鑄貨製造、發行、引換及銷却
手續第十七條ニ依リ此段及御届出候也

記

一、銷却事由 當金庫方共同印刷株式會社ニ寄託中ノ金庫券ハ五
月廿五日ノ空襲ニ依リ同社保管現場ニ於テ全額燒

南産臨第30号
20.6.21



一、銷却場所 失セルニ依ル 東京都小石川區久堅町一〇八 共同印刷株式會社
一、銷却時期 昭和二十年六月十五日
一、銷却金庫券 拾錢券 二六〇、〇八〇、〇〇〇枚
拾錢券 二七、八〇〇、〇〇〇枚
拾錢券 九九、五〇〇、〇〇〇枚
拾錢券 一二五、六〇〇、〇〇〇枚
壹錢券 五一二、九八〇、〇〇〇枚

計

五一一、九八〇、〇〇〇枚

以上

南方開發金庫

昭和二十年六月廿五日

瓶

柳

大東亞省南方事務局
産業經濟課長 鈴木政勝 殿

横濱正金銀行頭取席
海外部長 廣田藤四郎

拜啓

在ビルマ弊行各店一時閉鎖ノ件

陳者今般軍當局ノ南方地域ニ於ル金融機關非常措置ニ基キ三月十四日附
現地軍參謀長通牒ニヨリビルマニ於ル左記弊行店舗ハ南方開發金庫ニ統
合ノ上閉鎖候間此段御報告申上候

敬具

備賈支店 閉鎖日 四月十六日

モールタン、タボイ、メルギ、バセイン、ブローム、マンドレ、
ラシオ、タウンジ、マイミヨウ各出張所
トングイ派出所 以上十店 四月七日閉鎖

以上



三浦

昭和二十年六月廿五日

横濱正金銀行頭取席
海外部長 廣田 藤四郎

大東亞省南方事務局
産業經濟課長 鈴木政勝 殿

拜 啓

弊昭南支店出張員事務所開設ノ件
願者五月四日附弊信ヲ以テ御轉告申上置候首屆弊昭南支
店出張員事務所ハ六月十八日左記營業所ニ於テ開店致候
聞此段御報告申上候
敬 具

ナシムロード出張員事務所 昭南支店 昭南支店
Nassim Road 三



秘

◎大蔵省告示第 號

戰時特殊損害保險法施行規則第六條ノ規定ニ依リ保險料左ノ通指定シ
公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
昭和二十年六月一日

大蔵大臣 廣 瀬 豊 作

甲 戰時特殊損害保險法（以下單ニ法ト稱ス）施行規則第一條ノ保險
ノ目的（内地ヨリ帝國外ノ地域ニ又ハ帝國外ノ地域ヨリ内地若ハ外地
ニ運送セラルル物ヲ除ク）

第一、保險ノ目的ガ第一及第三ニ掲メルモノ以外ノモノナルトキ
（保險金額千圓ニ付）

保 險 期 間	戰 争 保 險 料	地 震 保 險 料
一年又ハ其ノ未滿六月ヲ超エル期間	八・〇〇	〇・五〇
六月又ハ其ノ未滿一月ヲ超エル期間	四・〇〇	〇・二五
一月又ハ其ノ未滿	〇・八〇	〇・〇五

保險ノ目的ガ住家（住居及物品、販賣、製造其ノ他住居以外ノ用
途ニ併セ供セラルルモノ）ヲ除ク以下同ジ）又ハ家財ナル場合ニ於
テ保險金額ガ住家一戸又ハ家財一世帯ニ付五萬圓ヲ超エタルトキ
ハ其ノ超エタル部分ニ付テハ戰爭保險料ハ前記保險料ノ額ノ二倍
トス

第二、保險ノ目的ガ工場物件、倉庫物件、森林其ノ他大蔵大臣ノ定
ムル物ナルトキ

（保險金額千圓ニ付）

保 險 期 間	戰 争 保 險 料	地 震 保 險 料
一年又ハ其ノ未滿六月ヲ超エル期間	四・〇〇	〇・五〇
六月又ハ其ノ未滿一月ヲ超エル期間	二・〇〇	〇・二五
一月又ハ其ノ未滿	〇・四〇	〇・〇五

第三 保險、目的カ運送品ナルトキ

(保險金額千圓ニ付)

戰爭保險料

一・〇〇

乙

法施行規則第一條、保險、目的中内地ヨリ帝國外、地域ニ又ハ帝國外、地域ヨリ内地若ハ外地ニ運送セラルル物及法施行規則第二條、保險、目的

第一 保險、目的カ法施行規則第二條第一項ニ掲グルモノナルトキ

(戰爭保險料保險金額千圓ニ付)

保險期間	地 區		
	第一地區	第二地區	第三地區
一年又ハ其ノ未滿六月ヲ超ユル期間	二・〇〇	四・〇〇	八・〇〇
六月又ハ其ノ未滿一月ヲ超ユル期間	一・〇〇	二・〇〇	四・〇〇
一月又ハ其ノ未滿	二・〇〇	四・〇〇	八・〇〇

第二 保險、目的カ法施行規則第一條第三項及第二條第二項ニ掲グル

モノナルトキ

(戰爭保險料保險金額千圓ニ付)

自 至	地 區		
	内地又ハ外地	滿洲國	第一地區
内地	二・〇〇	二・〇〇	四・〇〇
滿洲國	二・〇〇	二・〇〇	四・〇〇
第一地區	二・〇〇	五・〇〇	八・〇〇
第二地區	二・〇〇	八・〇〇	一〇・〇〇
第三地區	二・〇〇	一〇・〇〇	一〇・〇〇

備考

一 保險、目的カ甲第一、第二及乙第一ニ掲グル物(倉庫業者カ保險契約者、シテ倉庫ニ保管スル不特定物ヲ除ク)アル場合ニ於テ保險、目的、所在、移轉アリタルトキハ移轉後、所在カ保險料、低キ地區ニ屬スルトキ、雖モ保險料、返還ハ之



ヲ爲サズ保險料ノ高キ地區ニ屬スルトキハ移轉ノ時ニ於ケル
移轉後ノ所在ノ地區ノ保險料ガ移轉前ノ所在ノ地區ノ保險料
ヲ超コル額ニ付移轉後ノ期間ニ對シ日割ヲ以テ計算シタル額
ヲ追徴スルモノトス

二 保險ノ目的ガ運送品ナル場合ニ於テ發送地又ハ到達地ト經由
地トノ間ノ保險料ガ發送地ト到達地トノ間ノ保險料ヨリ高キ
場合ニ在リテハ其ノ最も高キ保險料ニ依ル

三 工場物件ハ常時十人以上ノ勞務者ヲ使用スル工場又ハ専業場
ニシテ十馬力以上ノ動力設備ヲ有スルモノノ構内ニ所在スル
建物其ノ附屬設備、工作物及動産(野積ヲ含ム)トス
倉庫物件ハ左ニ掲グル建物、其ノ附屬設備及此等ニ保管セラ
ル貨物(野積ヲ含ム)トス

ノ 日本倉庫業會會員タル倉庫營業者ノ占有スル建物ニシテ
貨物保管ノ目的ニ使用セラルルモノ

2 法令ニ依リ倉庫證券ヲ發行スル官廳、公法人、公益法人
又ハ組合ノ占有スル建物ニシテ貨物保管ノ目的ニ使用セ
ラルルモノ

3 占有者ノ如何ニ拘ラズ倉庫營業者ノ倉庫構内ニ所在スル
建物ニシテ貨物保管ノ目的ニ使用セラルルモノ

4 税關ノ占有スル建物ニシテ貨物保管ノ目的ニ使用セラルルモノ

四 第一地區ハ蘇彝士、北支及中支(漢口地區ヲ除ク)トス
第二地區ハ漢口地區、南支(香港、澳門、廣州灣租借地及海
南島ヲ含ム)泰國、印度支那、マライ、スマトラ、シヤ
ワ、ボルネオ、セレベス及小スンダ列島中「バリ」「ロンボ
ツタ」「スンパワ」ノ三島トス
第三地區ハ「フィリピン」共和國、「ビルマ」國、ニエー
ラニヤ、モルツカ諸島及小スンダ列島(第二地區ニ屬スルモ
ノヲ除ク)トス

註一 漢口地區ハ江西省、湖北省及湖南省トス

二 南方諸地域（獨立區ヲ除ク）ニ付テハ帝國ノ軍隊ヲ施行
シ居ラザル地域ヲ除ク

昭和十九年四月大藏省告示第百七十九號、昭和十九年六月大藏省告示
第二百七十號、昭和十九年九月大藏省告示第四百三十號及昭和十九年
十月大藏省告示第四百六十二號ハ之ヲ廢止ス

農林部令第五號二二號

昭和二十年六月二十日

南方開發院

部長 佐々木謙一



大東亞大臣 東郷茂徳殿



外資金庫預金ニ關スル件

昭和二十年三月一日附當金庫ト外資金庫トノ間ニ締結セル預金契約書ニ基キ昭和二十年六月二十日同金庫ニ對シ金五億圓他種入致候節此致及御報告候也

借覽

南方事務局長

佐々木謙一

トニ列

カ

南外第 八 五 號

昭和二十年 六月十九日

株式會社 臺灣銀行



東京都麹町區丸ノ内壹丁目貳番地
和文電信宛名略字 トウケウ タイギン
英文電信宛名略字 Tamaguchi Tokyo

株式會社 臺灣銀行

南方部長 森 亮 太 郎

大東亞省南方事務局

經濟課長 鈴木 政 勝

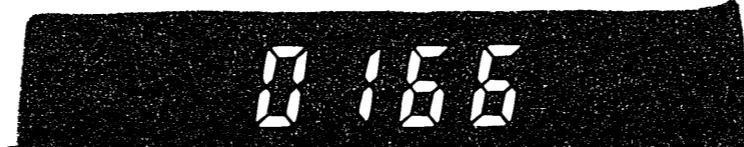


クーパーン出張所ビマニ移轉ノ爲
店舗一時閉鎖ノ件

拜啓陳者海軍省御當局ヨリ弊行クーパーン出張所（日銀代理店）スレバ
バワ島ビマニ移轉方御要請有之候處今般クーパーン出張所ヨリ（六月
三日デンハツサル出張所經由）

當局ノ指令ニ依リビマ移轉ノ爲五月三十日限り店舗一時閉鎖セリ
來電有之候間此段御通知申上候
尙ビマニ移轉店舗再開ノ上ハ更メテ御通知可申上候

敬 具





南發總文〇五第五五號

昭和二十年六月十九日

南方開發金庫
總裁 佐々木謙一郎



大東亞大臣 東郷茂徳殿



前田島出張所業務取扱中止ノ件
當金庫前田島出張所（北ボルネオ支金庫所屬）ハ現地當局ノ指示ニ依リ三月三十一日限りヲ以テ一時業務取扱中止致候條御諒承賜リ度此段及御報告候也

供覽

南方事務部長

三浦清太郎

三浦清太郎

南方開發金庫

仁行

外總為第八号

昭和十年六月二十六日 日本銀行外務局長 代

日本銀行

大東亞省南方事務司 産業經濟課長 殿

本月二十日付ヲ以テ御申越有之候泰國銀行特別月勘是ヨリ拂出ノ件左記ノ通御回答申上候也

記

一泰國赤十字社分泰國銀行ヨリノ支拂指圖未着ニ付至急泰國側ニ照會可致

昭和 年 月 日

日本銀行

二五月十八日泰國大使宛支拂済

昭和 年 月 日



奉

南支那第四一號

昭和二十年六月二十五日

南方事務部長

南方用巻紙評議總裁宛

南方十仙錫須慶分一関之件

首題ノ件ニ関シテ、曩ニ昭和二十年 月 日附

ヲ以テ軍需ニ移用ノ旨送附ス。引渡カ、速降致置候。慶

大況ニ依リ至急実施相成渡

規信-15 (東東40.6)

(起案用紙ノ三)

研-0618



大日本帝國政府

記

一 南方南洋羣島等 其ノ行政・經濟・傳育ノ十仙錫貨ヲ在安ノ俟當事
者主會ノ上造幣高ニ引渡ス

二 前項ノ引渡シ了レタキニ造幣高ニ其ノ代價ヲ東京ニ在テ印上價ヲ
以テ南方南洋羣島等ニ支拂フ

(國定規格B5(21×30))

規格-B5 (東京 811)

研-0618



南産字
(20. 6. 26)

大日本帝國政府

藏第 四 五 號

昭和二十年六月二十三日

大藏省金融局國庫課長



Handwritten signature or mark.

大東亞省南方事務局産業經濟課長 殿

南方十仙錫貨處分ニ關スル件

本月十五日附ヲ以テ御申越ニ係ル標記ノ件異存無之此段及回答候也



南産第三八號

昭和二十年六月二十二日

大東亞省南方事務局長



大藏省金融局長 殿

〔戰時特殊損害保險法適用ニ關スル件〕

標記ノ件ニ關シ盤谷「ノン、ブレイ」泰國法人泰紡績株式會社ヲ指定方在盤谷山本大使ヨリ別紙ノ通電信有之タル處適當ト被認ニ付指
定方可然御取計相成度

大東亞省

昭和二十年六月十一日
東 郷 大 臣 宛

在盤谷

山本大使發

〔戰時特殊損害保險法適用ノ件〕

戰時特殊損害保險法施行規則第二條第一項ノ戰爭保險ノ目的タルコ
トヲ得ルモノノ所有者トシテ左記指定方御取計相成度

一 盤谷「ノン、ブレイ」泰國法人泰紡績株式會社

ニ目的 紡績糸布生産

三 資本金 六百万圓ノ内泰工業省六割日本國四割（東綿、富士紡、

鐘紡）

四 保險ノ目的 工場事務所建物機械、器具、原料製品等一切

五 關係保險會社 大正海上火災

六 備考 本會社ハ泰糸ノモノ日泰合辦ニシテ建物ハ殆ント完成シ機
械（富士紡）モ六千圓分附南ヨリ封着済ニテ八月ニハ採業

大東亞省

開始ノ予定ナリ(了)

大
東
亞
省

東京177 (日本経済現況 B5)

研-0618

0174

兩院案第〇五號

昭和二十年六月二十八日

關東開發金庫
總裁 佐々木 謙一郎

大東亞大臣 東郷 茂徳 殿

對ビルマ國立銀行資金融通追加契約ノ件

首題ノ件ニ關スル五月十七日附兩院第八六號御通牒ニ基キ五月三十日附ヲ以テ同行ト添付追加約定書ノ通リ追加契約數候間此段御報書申上候也

74
略
手
書
後
書

在
會
議
中
後
書



追加約定書

昭和拾九年九月貳拾六日附南方開發金庫（以下金庫ト稱ス）トビルマ
國立銀行（以下銀行ト稱ス）トノ間ノ約定書（以下原約定書ト稱ス）
ニ依リ金庫ハ銀行ニ對シ同銀行券印刷費並ニ之ガ輸送費ノ融通ニ關ス
ル契約ヲ締結シタル處今般銀行ガ駐日ビルマ國大使館及南武官室ノ本
邦ニ於ケル經費調達ノ必要アル場合ハ金庫ハ銀行ニ對シ原約定書所定
ノ極度内ニ於テ之ヲ融通スベキコトヲ追加約定スルモノトス
右約定ヲ證スル爲本追加約定書貳通ヲ作成シ當事者双方記名調印ノ上
各自壹通ヲ保有スルモノトス

昭和貳拾年五月廿一日

南方開發金庫

總裁 佐々木謙一郎

ビルマ國立銀行

總裁

代理人

ビルマ國駐日大使

寫

約 定 書

南方開發金庫本金融（以下甲ト稱ス）カビルマ國立銀行（以下乙ト稱ス）ニ對シビルマ國立銀行券印刷費並ニ之カ檢査費ヲ融進スルニ關シ甲乙間ニ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 甲ハ乙ニ對シ千五百萬圓ヲ融進トシテ乙ノ必厚ニ融進シ反覆融進スルモノトシ乙ハ甲ニ對シ右融進金ヲ拂ノ方法トシテ約束手形ヲ提出スモノトス

前項ニ依リ乙ノ提出シタル手形ノ満期日ハ該手形提出ノ日より三ヶ月以内トシ完済ニ至ル迄各其ノ満期日ニ替替續續スルモノトス
但シ完済期日後ニ涉ラサルモノトス

第二條 前條ニ定ムル程度ハ當事者双方協議ノ上必厚ニ融進シ得ルヲ爲スコトヲ待ルモノトス

第三條 乙ノ提出シタル手形ニシテ其ノ取付ニ欠缺アリタル爲其甲ノ手形上ノ權利行使ニ付故障ヲ生シタル場合ト雖モ乙ニ於テ該手形會支拂ノ責ニ任スルモノトス

第四條 本借入金ノ利息ハ元金五百圓也ニ付日歩九厘ノ割合トシ乙ハ第



一 條約東手形振出ノ部度其ノ日ヨリ満期日迄ノ分ヲ甲ニテ拂フモノト
 ス
 但シ日本銀行ニ於ル國債擔保貸出ノ利息ニ關スル條件ニ變更アリタル
 場合ハ之ニ應ジ上記條件モ變更セラルモノトス
 第五條 乙ノ本借入金完済期限ハ最初ノ借入ノ日ヨリ三ヶ年トシ期日ニ
 日本國ヲ以テ元金全額ヲ甲ニ支拂フモノトス
 但シ甲ニ於テ乙ノ國府金ニ餘裕ヲ生シタルモノト認メタル場合ハ期日
 前ト雖モ乙ハ甲ノ請求次第本借入金ノ全部又ハ一部ヲ返済スヘキモノ
 トス
 第六條 本借入金ノ受授及返済ノ場所ハ東京ニ於ケル甲ノ營業所トス
 第七條 本契約實施ノ爲必具ナル事項ハ當事者双方協議ノ上之ヲ定ムル
 モノトス
 第八條 本契約ノ效力ハ昭和十一年 月 日ニ發生スルモノトシ
 必要ノ場合ハ當事者双方協議ノ上本契約ヲ變更又ハ追補シ得ルモノト
 ス

右契約ヲ締結シタル證トシテ貳通作成シ當事者双方記名關印ノ上各登
 ヲ保有スルモノトス
 昭和 年 月 日

南方開發會社
 代表 佐々木 隆一郎

ビルマ獨立銀行
 總裁

代理人
 ビルマ駐日大使



追加約定書

昭和拾九年九月貳拾六日附南方開發金庫（以下金庫ト稱ス）トビルマ國立銀行（以下銀行ト稱ス）トノ間ノ約定書（以下原約定書ト稱ス）ニ依リ金庫ハ銀行ニ對シ同銀行券印刷費並ニ之ガ輸送費ノ融通ニ關スル契約ヲ締結シタル處今般銀行ガ駐日ビルマ國大使館及同武官室ノ本邦ニ於ケル經費調達ノ必要アル場合ハ金庫ハ銀行ニ對シ原約定書所定ノ極度内ニ於テ之ヲ融通スベキコトヲ追加約定スルモノトス

右約定ヲ證スル爲本追加約定書貳通ヲ作成シ當事者双方記名調印ノ上各自壹通ヲ保有スルモノトス

昭和貳拾年五月 日

南方開發金庫

總裁 佐々木 謙一郎

ビルマ國立銀行



代理人

ビルマ國駐日大使

参考

本署のビルマ銀行の事務

委任通知書

ビルマ駐日大使
千五百圓也ヲ極度トシテ資金ノ融通ヲ受クルロトニ關シ資金庫ノ指示
スル條項ノ契約締結借入並ニ返済及契約條項ノ消滅變更其他一切ノ事項
ヲ處理スル權限ヲ附與致候
但今後右代理人變更ノ場合ハ過滞ナク資金庫ニ通知可致候

昭和 年 月 日

ビルマ獨立銀行

總裁

南方開發資金庫

總裁 佐々木謙一郎 殿



南洋興業〇五第 乙二號

昭和二十年六月三十一日

南方開發金庫
業務部長 藤 正 憲

大東亞省南方事務局
産業經濟課 長 殿

拜啓 益々御清祥奉賀候
貴者當金庫内地購買一覽表(四月末日現在) 茲許同封御送附申上
候間御査収被下度儀

供
事
務
局
長
殿

南洋興業
事務局長
殿

南方開發金庫

内地証券発行一覽表 (昭和二十一年一月末日現在)

待付	九	契約金額	付付額	積立中額
淺野重工業	一、三三〇	一、三三〇	一、三三〇	〇
特種鋼材興業	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	〇
亞細亞パルプ	三、三二一	一、一三一	一、一三一	〇
海野セメント	四、一六一	一、五〇〇	一、五〇〇	〇
安宅	六、〇〇〇	五、三九五	五、三九五	〇
石原	四七〇	四七〇	四七〇	〇
株式會計	二九二	二九二	二九二	〇
岩井炭業株式會社	七一〇	五〇〇	五〇〇	〇
石原炭業	一六、七一七	三、九九一	三、九九一	〇
海野セメント	一、一五四	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇

石井精密工業株式會社	三、五〇〇	二、〇〇〇	〇
一三六工場	五七	五七	〇
株式會社 原製作所	七七五	四〇〇	〇
社団法人 映畫配給社	六、一七八	六、一七八	〇
水島 産業公司	一、九五〇	一、四五〇	〇
王子製紙株式會社	一、〇七九	一、〇七九	〇
大阪商船	四、七六二	四、七六二	〇
大分南洋興業	三〇〇	三〇〇	〇
大阪鐵板製造	一、三二〇	一、一七八	〇
小田原製紙	一、五二二	一、五〇一	〇
小野 洋行 公司	五四七	五四七	〇
香戸造船株式會社	三〇〇	三〇〇	〇
太田興業	二〇八	二〇八	〇
加藤興業	一、四六八	一、四六八	〇
香川縣ビルマ出漁組合	九三五	九三五	〇

香川洋行株式会社	九八〇	八〇〇	〇
協同煙草	一、九四六	一、九四六	〇
協和煙草	三、五〇〇	三、〇〇〇	〇
合資會社久保田硝子工業	六七八	六七八	〇
榮正台名産	一三四	一三四	〇
有限會社長尾製糖株式会社	七、六九一	七、六九一	二、五七三
關西電力株式会社	二五〇	二五〇	〇
合同	八、三三〇	六、九七二	〇
江	一、五〇〇	一、五〇〇	〇
坂口興業	四、五六五	四、一〇五	〇
有限會社島本造船所	五五七	五四一	〇
神樂本才興業株式会社	九四四	六〇〇	〇
株式會社下宮商店	一、七九七	一、七八五	〇
昭和産業化工株式會社	七、一七〇	六、五〇五	〇
ジャワ運搬會社	一、二〇〇	一、〇〇〇	〇

任友興業株式会社	一、〇三四	一、〇三四	〇
任友興業	一、六五〇	一、六五〇	〇
石油聯合	一、二〇〇	一、二〇〇	〇
石油硝子	一、五八九	一、四〇九五	〇
精製酒會糸川硝子	四八二	四八二	〇
高島屋飯田株式會社	四〇〇	四〇〇	〇
株式會社瀧崎鐵工所	一、〇〇〇	八〇〇	〇
瀧崎バルブ工業株式会社	三、八〇五	三、三〇五	〇
高岡水産	二、二三五	二、二三五	〇
高砂製糖	六六三	六六三	〇
瀧崎製糖	八、七三〇	二、九七一	〇
大日本印刷	五〇〇	一〇〇	〇
大東産興業	五、〇三四	五、〇三四	〇
大東造船	三、〇〇〇	二、一五〇	〇



大日本再生製紙株式会社	二、三九八	二、三九八	
タワ才産業	四八二	四八二	
株式会社資誠ホタル	一〇六	一〇六	
太平洋製薬株式会社	一二九	一〇〇	一〇〇
中部配電	三、三〇〇	三、三〇〇	
朝鮮皮革	三、六八〇	二〇〇	
帝國皮革工業	二五〇	二五〇	
帝國機織	一、一四〇	一、一四〇	一、一四〇
東亞興産	六七二	六七二	
東山産業	七、二一九	七、二一九	三二〇
東洋金山	三二〇	三二〇	
東京電機紡績	四、六五〇	一、二二〇	
東光紡機	三、五五九	三、五五九	
東亞交通協會	一、八二〇	一、八二〇	

南方運輸會社	一六、六八〇	一六、六八〇	
南興水産株式会社	六〇九	六〇九	
南方水産興業	二、〇六三	一、八一	
南國企業	一、二三七	一、二三七	
南方貿易漁業部 新井盛隆	二、四五三	二、四五三	一九一
南方木船所 (飯塚茂)	二、〇〇〇	六、二〇〇	
南方陸軍木造船組合	二〇、〇〇〇	一三、五〇〇	
日本油機製造株式会社	二、三〇一	二、三〇一	
社団法人日本映画	一、八四五	一、四〇五	
日商産業株式会社	一、五〇〇	一、五〇〇	
日本木材工業	一五〇	一五〇	
日産製林工業	二、五一八	二、五一八	
株式会社日本ドラム製造作所	一、〇〇〇	七〇〇	
日棉興業株式会社	四、四七九	二、五〇〇	

日本織製工業株式会社	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇
仁部 隆太	一八〇	一八〇	〇
日本製鋼所株式会社	七九六	七九六	〇
野村東印度船産	二、三〇〇	一、〇〇〇	〇
株式会社 林兼商店	九、五三三	五、五三三	〇
光榮作所	九〇〇	九〇〇	〇
古川製鋼所古川長雄	二五五	二五五	〇
古河鐵業株式会社	九、五八七	八、五〇〇	〇
福泉食品工業	二五三	二五三	〇
富士瓦斯紡績	六、五〇三	五、五〇二	〇
古川拓殖	二二九	二二九	〇
本島納企業	一五、二九二	一、八〇〇	三五三
本多 喜八郎	六一三	六三	〇
ポルネ才殖産株式会社	九九	二九	〇

日東工機株式会社	五、八〇〇	五、八〇〇	〇
日比企業	五八一	五八一	〇
日比海産	九五〇	九五〇	〇
日本鋼管	一六、九四六	九、五〇〇	〇
日本塗料肥料	三一九	二〇〇	〇
日通實業	一、二五〇	六四五	〇
日本油筋	二、三三〇	二、三三〇	〇
日本造船新具	四〇〇	四〇〇	〇
日本製金庫	一四、二四六	一五、二四六	〇
日商製紙	二、六一〇	二、三三二	〇
ポルネ才殖産	一一、二四三	六、八〇〇	〇
日商造船造機	一六、七八三	一、〇九四	〇
日本コンクリート	七五五	五五〇	〇
株式会社日進ベニア製作所	三五三	三五三	〇



水尾才水産株式会社	七七〇	七七〇	〇
株式会社丸玉	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇
丸 永株式会社	四六二	四六二	〇
増成動力工業	一、〇〇〇	六八一	〇
株式会社光村原色版印刷所	四九〇	三五〇	〇
三菱商事株式会社	五、一〇〇	四、四九五	〇
三井物産	一〇、一三五	八、九一八	〇
株式会社官田製作所	二六七	二六七	〇
三菱製紙株式会社	三、四五〇	三、一五〇	〇
三菱電機	二、一三七	二、一三七	〇
附日本汽船	四、一一二	二、八三三	〇
三國商工	八九	八九	〇
明治薬業	五、三五〇	二、〇〇〇	〇
元山運輸商事	八八四	八八四	〇
株式会社山口自動車工場	三〇〇	三〇〇	〇

山野製紙所 鶴田資之輔	二、〇八七	二、〇八七	〇
山下汽船株式会社	二六〇	二六〇	〇
小計	四二六、八六四	三二九、五六二	四、六一〇 三五三

海軍關係分

内地融資實行一覽表 (昭和二十年五月末日現在)

(單位 千圓)

貸付先	契約金額	貸付残高	至月中實行額
亞細亞バルブ株式会社	九二七	九二七	〇
麻生鑛業	五、三一八	五、三一八	〇
岩井産業	四七四	四七四	〇
石原産業	一、〇〇〇	五、二一五	〇
井關物産洋行	六、〇〇五	三、八四四	〇
小野田セメント製造株式会社	三、五五四	三、〇〇六	〇
鐘淵工業	三、四六〇	三、四六〇	〇
加奈木工業	三、二五七	三、二五七	〇
共榮興業	一、八〇〇	一、八〇〇	〇
興南林業	五五八	五五八	〇

興南組金子啓藏	二、八〇四	二、五〇〇	〇
興南棉花株式会社	五五〇	四五〇	〇
興南海運	二、一七〇	二、一七〇	〇
國際運輸	一、四一四	一、四一四	〇
三興南方殖産	五〇〇	五〇〇	〇
品川白煉瓦	一五〇	一五〇	〇
新南興業	四、三五二	四、三五二	〇
株式会社昭和組工昨所	五四六	五四六	〇
島田合資會社	六、〇〇〇	五、八四〇	〇
昭和護謨株式会社	一、五〇二	五〇〇	〇
住友鑛業	一三、一八二	七、七二四	〇
株式會社隅田組	三〇九	三〇九	〇
拓南興業株式会社	七〇〇	七〇〇	〇
太洋水産	五一六	五〇〇	〇
株式會社棚橋組	一、〇〇〇	五〇〇	〇

日本製鐵株式會社	六四、〇〇〇	五〇、〇〇〇	〇
日南木材造船	七五八	七五八	〇
日本タンニン工業	五七〇	五七〇	〇
日東海運	二、八三九	二、八一二	〇
日本共立興業	四、四一三	四、四一三	〇
野村東印度殖産	四、六七〇	四、六七〇	〇
日ノ丸航運	一、二五〇	一、二五〇	〇
鳳敦産業	一、八四五	一、八四五	〇
古川拓殖	九一	九一	〇
米星産業	七六五	三〇〇	〇
ボルネオ造船所經營組合	一〇〇	五〇	〇
合資會社ボルネオ物産商會	八四五	八四五	〇
ボルネオ水産株式會社	七二〇	三〇〇	〇
ボルネオ興業	七六〇	七四四	〇
南太平洋貿易	六、七六二	六、六六二	〇

大東振興株式會社	一、一〇六	一、一〇六	〇
大建産業	二、三五〇	二、〇五〇	〇
大和航運	一、六九八	一、三二二	〇
大日本油脂	二、六六二	二、六六二	〇
京滿林業公司	八七一	八七一	〇
東亞鑛工株式會社	八、二四一	五、七〇三	〇
東北振興水産	八、〇〇〇	八、〇〇〇	〇
東印度水産	四、九一九	四、九一九	〇
南貿汽船	三、四九三	三、四三九	〇
南洋興發	一、八五六	一、五六三	〇
南興水産	三、六〇〇	三、一八二	〇
南亞企業	七、九六五	七、九六五	〇
南洋タンニン開發興業	一、二七〇	一、二七〇	〇
南洋倉庫	三七二	三七二	〇

三菱商事株式会社	メナド造船	小計	合計
二〇〇	四、七九九	二四三、六三八	六七〇、五〇二
二〇〇	三、一六	一九三、〇五四	五一二、六一六
〇	〇	九一	同收 四七〇 三五三

供覽

大東亞大臣 東郷 茂徳 殿

昭和二十二年六月二十日



大東亞大臣 東郷 茂徳 殿

南方開發部
總裁 佐々木 謙一 郎



No. 62

外資金庫預ヶ金ニ關スル件
昭和二十二年三月一日附當金庫ト外資金庫トノ議ニ締結セル預金契約書
ニ基キ昭和二十二年六月三十日同金庫ニ對シ金五億圓也預入致候間
貴殿及御報告候也

供覽

南方事務局長

佐々木 謙一 郎



No 71



南産臨字六九号
20.7.18



南發發行〇五第三六號

昭和二十年七月十一日

南方開發金庫

總裁 佐々木謙一



大東亞大臣 東郷茂徳殿

南方開發金庫券銷却ニ關スル件

當金庫小スンダ支金庫保有損傷金庫券左記ノ通り銷却致候間南方
開發金庫券及南方開發金庫鑄貨製造、發行、引換及銷却手續第十
七條ニ依リ此段及御届出候也

左記

供
覽
切
手
事
務
長
官
長
官

佐々木謙一
長官

南方開發金庫





種 類	枚 數	金 額	銷 却 年 月 日	銷 却 場 所
十圓券	3000	30000	昭和二十年四月十日	シンガラジャ 南方開發金庫 小スタ支金 庫構内
五圓券	6600	33000	"	
一圓券	26000	26000	"	
五十仙券	66000	33000	"	
十仙券	60000	6000	"	
十仙券	120000	12000	昭和二十年四月十一日	
五仙券	300000	15000	"	
一仙券	100000	1000	"	
一仙券	300000	3000	昭和二十年四月十二日	
合計	1216000	1216000		
半額は號十圓券	2	10	昭和二十年四月十日	
五圓券	3	15	"	
一圓券	2	2	"	
五十仙券	2	1	"	
十仙券	8	40	"	
合計	17	19		
合計	1216017	1216019		

南方開發金庫

研-0618

0192

1064

南發業〇五第
(20.7.11)

南發業〇五第 〇七 號

昭和二十年

月

日

南方開發金庫

業務部長 藤 松 正

憲代

大東亞省南方事務局經濟課

中西事務官 殿

拜啓 陳者當金庫昭和十九年度業務概況不取敢別紙ノ通り取纏メ候
間茲許御送附申上候
敬具

供覽

南方事務官 殿

藤松正 殿

南方開發金庫

昭和十九年度業務概況

本年度ニ於ケル現地金融狀況ヲ概観スルニガ島轉進以來ノ戰局ノ推移ニ
伴ヒ現地ニ於ケル自戦自治態制ノ強化ハ現地産業經濟ニ影響スル處大ニ
シテ前年度來既ニ其ノ徵候ノ現ハレタル通貨膨脹ノ趨勢ハ愈顯著ニシテ
殊ニ本年度下半年期ニ入り比島地區ニ於ケル異變ヲ見ルニ及ビテハ軍需費
ノ支拂ヲ主トスル資金放濫ガ遂日激増ヲ遂ゲ又開辦事業中ニハ停止又ハ
計畫變更ノ已ムナキモノアリタルニ拘ラズ物價券貨等ノ奔騰及資材入手
難ニ基キ其ノ所要資金量ハ増嵩ノ一途ヲ辿リタレバ資金吸收ニ於ケル施
策ト努力モ些シテ見ルベキ效果ヲ舉ゲ得ズ現地ニ於ケル通貨放出量ハ漸
次其ノ膨脹度ヲ深ムルニ至レリ
右情勢ニ對應シ當金庫ハ對市中銀行貸出ニ付調整利率ヲ適用スル等ノ方
法ニ依リ之ガ放慢ナル貸出ノ抑制ヲ圖ルト共ニ市中金融機關ノ預金吸收
ニ熱意ヲ與フル趣旨ヲ以テ之ガ受入利率ノ一部引上ヲ實施シ當金庫ヘノ
資金流入ヲ圖ル所アリ又現地實情ニ即スル非常事態金融方策ト共ニ一部

地域ニ於テハ金融機構ノ一元化ヲ圖リ以テ現地ニ於ケル通貨金融措置ニ
應ズル所アリタリ

本年度融資ノ狀況ハ前述ノ如ク通貨増勢ノ影響ヲ受ケテ顯著ナル増勢ヲ
辿リ年度中増加額ハ内地融資ヲ合セ車輛係貸上百二十二億千七百七十萬圓ヲ
首トシ復舊開發資金十六億千五百萬圓對銀行融資三億七千九百八十萬
圓外國政府貸出一億九千四百二十萬圓計百四十三億九千九百七十萬圓ト
前年度増加額二十六億八千四百四十萬圓ノ五倍半ノ巨額ニ迫ビ年度末殘高
ハ百七十二億二千六百六十萬圓ニ達シタリ
軍需係貸上ノ内地ニ於ケル臨時軍事費特別會計ニ對スル貸上ノ狀況ヲ
觀ルニ四月五億圓五月一億五千萬圓六月二億圓七月四億五千萬圓八月
月五億五千萬圓九月七億圓ト逐月増嵩シ來リタルガ下半年期ニ入りテヨ
リハ作戦ノ進展ヲ反映シテ殊ニ激増ヲ遂ゲ十月十一月ノ各九億圓ヲ最
低トシ下半年期ノ月平均増加額ハ十四億圓ノ巨額ニ迫ヒカクテ年度中増加
額ハ昨年度ノ十六億五千萬圓ニ對シ百九億五千萬圓ニ上リ外ニ軍票引繼
分十一億五千二百八十二萬圓ヲ加ヘ年度末殘高ハ實ニ百三十七億五千二

百八十二萬圓ノ巨額ニ達シタリ 此ノ間三月一日附ヲ以テ外資金庫設立
セラレ臨時軍事費特別會計ニ對スル貸上ハ同金庫ヲ通シ爲サルルコトト
ナリタル爲金庫ハ同金庫ト預ケ金契約ヲ締結シ以後同金庫ニ對シ其ノ資
金ヲ融通スルコトトスルト共ニ臨時軍事費特別會計ニ對スル既往ノ貸上
殘ハ之ヲ同金庫ニ肩代リセシメタリ
現地ニ於ケル經濟開發ハ戰局ノ推移ニ鑑ミ本年度ニ入りテヨリハ殊ニ其
ノ迅速化ヲ要望セラレ爲ニ事業資金ノ需要旺盛ヲ加ヘテ年度中増加額ハ
本金庫二億七千三百二十萬圓、現地十三億四千八百八十萬圓、計十六億千
五百萬圓ト昨年度増加額七億九千五百二十萬圓ノ二倍ニ上リ年度末殘高
ハ内地五億八百二十萬圓、現地二十億四千四百三十萬圓計二十五億二千二
百五十萬圓トナリタリ之ヲ支金庫別ニ見ルニ殊ニマライ、スマトラ、
ジャワ、ビルマ、北ボルネオ各支金庫ノ増勢顯著ニシテ之等支金庫ニ於
テハ夫々前年度ニ比シ三倍乃至五倍ノ増加ヲ示シタルガ海軍地區及比律
賓ニ於テハ戰局ノ進展ニ伴フ擔當業者ノ内地歸還、事業ノ縮少等漸次表
面化シ來リ新規貸出減、既融資ノ回收等ニ依リ伸張鈍化ノ傾向認めラル

ルニ至リタリ此ノ間本金庫ニ於テハ業者ノ要望モアリ從來ノ融資範圍ヲ
擴張シ七月ヨリ内地拂人件費、經費等融通ノ途ヲ開キタリ

外國政府關係貸出金ハ前年度ニ引キ續キビルマ國立銀行ニ對シ主トシテ
同國財政所要資金トシテ一億七千六百三十萬圓ノ貸出増ヲ見テ結局年度
末殘高二億千八百九十萬圓トナリタル外新タニ比律賓ニ對シ同國財政所
要資金ヲ貸付クルコトトナリ十二月十九日五千萬圓ノ貸付契約締結年度
中千五百萬圓融資實行セリ 尙ビルマ國立銀行設立ニ伴フ同銀行捺印刷
費竝ニ之ガ輸送費ハ本金庫ニ於テ圓資金ヲ貸付クルコトトシ十月五日同
銀行ニ對シ千五百萬圓ノ貸付契約締結三百二十六萬圓融資實行ヲ見タル
ガ右ヲ合セ年度中外國政府關係貸出金ハ一億九千四百二十萬圓ニ達シ年
度末殘高二億三千七百八十萬圓トナリタリ
對銀行貸出ノ狀況ハ當方ノ抑制方針竝ニ戰局ノ推移ニ伴フ貸出手控旁々
マライ二千七百七十萬圓、ビルマ千九百四十萬圓、ジャワ七百萬圓各減等
概ネ減少傾向ヲ示シテ堅實ニ推移シ比律賓ヲ除キタル各地域ノ合計ニ於
テハ前年度比三千九百三十萬圓減トナリタルガ獨リ比律賓ニ於テハ同地

ニ於ケル戦局ノ展開及通貨膨脹ノ實情ヲ反映シテ十二月迄ニ實ニ四億千九百二十萬圓ノ巨額ノ増加ヲ見タル爲（其ノ後ノ數字ハ不明ナリ）結局比従資ヲ加ヘタル總計ニ於テハ三億七千九百八十萬圓増年度末殘高五億四千二百六十萬圓トナリタリ

一方現地ニ於ケル預金ノ狀況ヲ觀ルニ定期預金利率引上特別定期預金及特殊國債貯金制ノ實施等積極的ナル資金吸收方策ニ努力スルトコトアリ軍政會計預金ヲ除キタル一般預金ハマライ八千九百萬圓増、ジャワ一億四百七十萬圓増ト右二區^地ニ於テハ其ノ増加額ハ一億八千五百六十萬圓ニ達シタルカ海軍地區及比律賓ニ於ケル減少振りハ特ニ注目ヲ惹ク所ニシテ結局總体ニ於テハ一億六千八百八十萬圓増ニ止マリ前年度一般預金増加額一億八千八百六十萬圓ニ比シ減少ヲ示スニ至リタリ之ヲ年度末殘高ニ就テ觀ルモマライ及ジャワニ於ケル殘高ハ夫々前者一億二千二十萬圓後者二億千八百六十萬圓ニシテ以上二地區ノミニテ殘高合計四億六千三百四十萬圓ノ七割ニ迫ブ三億二千八百八十萬圓ヲ占ムルニ至レリ軍政會計預金ハジャワ、マライ、スマトラ等ニ於テ合計一億六千七百八

十萬圓ヲ増加シ年度末殘高五億七千十萬圓ニ達シタリ
内地融資資金及南方開發金庫券製造費竝ニ現送諸費用等ノ支拂資金ハ前年度同様主トシテ借入金ニヨリタルカ本年度ハ金庫券製造費等ノ所要資金モ減少ヲ見タル外他面臨軍貸上金利息竝ニ軍携行通貨ノ交換ニ依ル受入金等合計一億一千萬圓方ノ受入アリタル爲之等支拂資金ハ借入ニヨラズ右取入金ヲ以テ支辨シ得タルノミナラズ内地融資資金ノ一部モ之ヲ以テ賄フヲ得タリ 即チ金庫券製造費竝ニ現送諸費用ハ金庫券ノ現地印刷ノ方面ニ進ミタルニ伴ヒ本年度支拂高ハ千九百五十萬圓ト前年度支拂高四千六百六十萬圓ニ比シ顯著ナル減少ヲ見タルカ右支拂高ト本年度内地融資ノ増加額二億七千六百五十萬圓トヲ合計シ本年度二億九千六百萬圓ノ内地資金ヲ所要シタルニ對シ借入金ノ狀況ハ年度中借入總額六億九千三百九十萬圓、返済額五億二百四十萬圓ト結局一億九千五百五十萬圓ノ増加ニ止マリタリ 之ヲ長期資金竝ニ短期資金別ニ觀ルニ長期資金ニ於テハ農林中央金庫引受ニテ五回總額九千萬圓ノ債券ヲ發行シタル外預金部ヨリ七千萬圓、地方銀行共同融資團ヨリ八千九百萬圓年度中計二億四千九

百萬圓ヲ調達セルガ一方短期資金ニ於テハ預金部ニ對シ年度中ノ借入總額二億千五百萬圓、返済額二億四千五百萬圓、日本銀行ニ對シ借入總額二億二千九百九十萬圓、返済額二億五千七百四十萬圓ト結局前年度比五千七百五十萬圓ノ減少ヲ見タル爲年度中ノ借入増加額ハ前記ノ通り一億九千五百五十萬圓ニ止リタリ。カクテ借入金ノ年度末殘高ハ長期資金ニ於テハ債券一億七千萬圓預金部一億二千五百萬圓、地方銀行共同融資團一億三千四百萬圓、生保團二千萬圓、計四億四千九百萬圓トナリ。短期資金ニ於テハ預金部ヨリノ前年度借入殘三千萬圓ヲ皆済シ日本銀行ノ五百五十萬圓ノミトナリタリ。

昭和二十年六月十一日

横濱正金銀行頭取席
海外部次長 廣田 藤四郎

大東亞省南方事務局長
水野 伊太郎

拜 啓

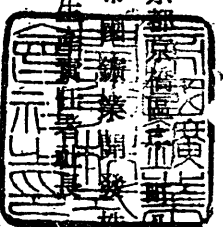

弊ビナン支店出張員事務所開設ノ件

陳者五月四日附弊信ヲ以テ御報告申上直候首題弊ビナン支店出張員事務所ハ
六月一日左記營業所ニ於テ開店致候間此致御報告申上候
敬 具

ブキマタシヤム出張員事務所
(Bukitmerajan)

馬來ビナン州ブキマタシヤム市
タリムロード一二五

(横濱正金銀行)

住所 東京都原宿区西目黒三丁目十九番地
 代表者 帝國藥業開發株式會社

 普 禮之助


(一號表)

昭和二十年三月末現在南方事業ニ對スル投下資本額
帝國藥業開發株式會社比島製煉所建設分

項目	金額	備考
物件費 (荷造運送諸費ヲ含ム)	五〇五五二五九九	
材料費 (荷造運送諸費ヲ含ム)	二一六五一〇九四	
南方在勤職員経費 (俸給、給與、社任諸費、生命保険料等)	九八四五三二六	
南方事務管理費		
人件費 専ラ南方事業ノ事務ニ 從事スル俸給、給與 (八九二一七二) 諸手當旅費等		
事務費 通信費、消耗品費、福利施設等 (九三四一五四)		



今後南方事業ノ爲本邦ニ於テ必要トスル經常的經費年額調

南方在勤職員經費		金額	備考
俸給	給	七九六三一六四	本經費ハ現在員職員二四名其他一五名ニ關スル本部 留守宅送金ナリ
諸手賞	賞	一三、七二八〇〇	
賞	興	四九四一二八八	
計	計	一四二、七七三、五二	
南方事務官埋費			海外人員九名
人件費	費	二四、五三〇、〇〇	俸給九六〇〇圓手當三〇〇〇圓健康保險料一八四圓
事務費	費	一、九二〇、〇〇	厚生年金六六六圓旅費二、四八〇圓賞與七六〇〇圓
計	計	二六、四五〇、〇〇	通信費六〇〇圓事務用消耗品費七二〇圓福利施設費六〇〇圓
總計	計	一六九、二二二、五二	



融國券

昭和二十年七月二十六日

大藏省金融局國庫課長



大東亞省南方事務局産業經濟課長 殿

大 日 本 帝 國 政 府

南方十仙錫貨處分ニ關スル件
標記ノ件ニ關シ今般造幣局ヨリ別紙ノ通照會有之候ニ付異存ナキ旨回答
致候條此段及御通知候也

別紙

大 日 本 帝 國 政 府

南方十仙錫貨幣ノ回收價格ハ昭和十八年十二月三日理秘第二一〇〇號
「南方硬質發行方法ニ關スル件」備考ニ從ヒ南發金庫ノ損害ヲ蒙ルコ
トアルベキヲ防止スル爲同金庫ノ引取價格ニ引取後ニ於ケル同金庫ノ
支出セル經費（運送料、倉庫料、保險料、利子等）ヲ加算セル額トス

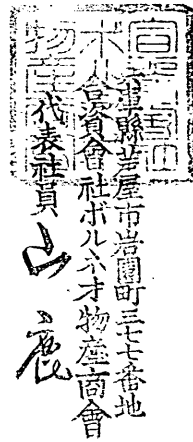
研-0618

0201

昭和貳拾年六月十日

大東亞省

南方事務局 經理課 御中



拜啓 益々御清静之段奉賀候
陳者 社団法人南方農林協會よりの御通牒南總第二七號（昭和二十
年三月三十一日付）による

南方事業ニ關スル調査

茲許添付別紙の如く及御回答候也
尙當本社は去る参月拾七日神戸にて罹災全焼せし爲御回答方著し
く延引の段御容敬願上候

以上

一、昭和貳拾年參月末現在南方事業ニ對スル投下資本額

項目	金額	備考
物件費	四六二、六四三	五九四 大東亞戰后分
南方在勤職員經費	四九八、三六九	六三三 社員家族生計費 南洋渡航費(含生保)
人件費	五八、九四八	〇七
事務費	六七、三六三	〇五
事務所費	一一、八四〇	二〇
計	一、一〇〇、一六四	四九 大東亞戰后分
南方事業ヨリノ受取金額	三六九、三八〇	九八 計員國許受取金 事務管理費
差引南方事業勘定殘高	七三〇、七八三	五一 六四、〇五五・九九
別個ニ大東亞戰前投資額	五五四、九八三	五三
南方事業總投資額	一六五、七六七	〇三
社内利子	未付替	

註 一、本社ハ昭和二十年三月十七日神戸ニ於テ罹災全焼シタル爲
帳簿不備ニヨリテ右金額ニ多少正誤ナラザル所アリ

二、右ハ陸軍々政地區内ノ事業ニ對スル分ナリ

二、今後南方事業ノ爲、本邦ニ於テ必要トスル經常均經費年額圖

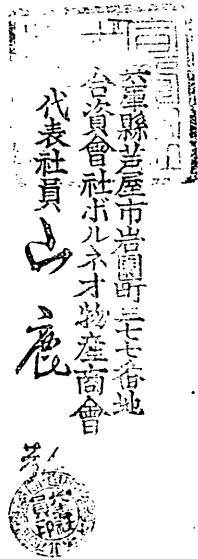
項目	金額	備考
南方在勤職員經費	四四二、七二〇圓	現在員役員、八名 三八、一六〇圓 職員 九六名 三八七、七二〇圓
轉地家族渡シ生活費 (俸給、手當ノ内)	四二五、八八〇	俸給並ニ諸手當ノ總合計ノ内上記ノ内 地家族生活費トシテ支拂ヒ、殘金ハ現 地ニテ職員ニ支拂フ、從而内地家族生 活費渡シ必事ナキモノハ除ク
牛保保險料並ニ職 爭保險料	一六、八三〇	金以外
兩方事務管理費	九六、八〇〇	
人件費	六二、〇〇〇	結與、手當、賞與計 五二、五〇〇圓 ソノ他 計 九、五〇〇圓
事務費	三一、八〇〇	
事務所費	三、〇〇〇	事務所費並ニ倉庫 借賃

合 計	五三九、五一〇	事務所費並ニ倉庫 借賃
(附) 兩發ヨリノ 借入金利息豫想額	四五、八〇〇	畢業者命トシテ借入分 三三七、〇〇〇圓 家族券命及ビ畢業管理費 トシテ借入予定分 五三九、〇〇〇圓

昭和二十六年六月十日

大東亞省

兩方事務局 經理課 御中



拜啓 益々新清韓之段奉賀條

陳者 社團法人兩方農林協會よりの御通牒兩報第二七號（昭和二十
年三月三十一日付）による

兩方事業ニ關スル圖書

按所添付別紙の如く及御回答候也

倘當本社は去る参月拾七日神戸にて罹災全焼せし爲御回答有若し
く延引の段御答致願上候

以上

一、昭和貳拾年參月末現在南方事業ニ對スル投下資本開

項目	金額	備考
物件費	四六二、六四三	大東亞戰后分
南方在勤職員經費	四九八、三六九	社員家族生計費 四三三、九九四・五九 南洋渡航費(含生保) 六四、三七五・〇四
人件費	五八、九四八	〇七
事務費	六七、三六三	〇五
事務所費	一一、八四〇	二〇
計	一一〇〇、一六四	四九 大東亞戰后分
南方事業ヨリノ受給金額	三六九、三八〇	九八 計員國許送金 三〇五、三二五・〇〇 學費管理費 六四、〇五五・九八
差引南方事業勘定残高	七三〇、七八三	五一
別個ニ大東亞戰前投資額	五五四、九八三	五三
南方事業總投資額	一六五、七六七	〇三
社内利子	未付	替
<p>南方事業ニ對スル 投下資本ニ付各月平 均殘高年五分ノ割合 ヲ乘ジタル額ノ累計額</p>		

註一、本社ハ昭和二十年三月十七日神戸ニ於テ罹災全焼シタル爲
帳簿不備ニヨリテ右金額ニ多少正確ナラザル所アリ

二、右ハ陸軍々政地區内ノ事業ニ對スル分ナリ

二、今後兩方事業ノ爲、本邦ニ於テ必要トスル經費均經費年額關

項目	金額	備考
兩方在勤職員經費	四四二、七一〇圓	現在員役員 八名 三八、一六〇圓 職員 九六名 三八七、七二〇圓
兩地家族渡シ生活費 (俸給、手當ノ内)	四二五、八八〇	俸給並ニ諸手當ノ總合計ノ内上記ノ内 地家族生活費トシテ支拂ヒ、殘金ハ現 地ニテ職員ニ支拂フ、從而内 地家族生 活費渡シ外 俸給トシテモノハ除ク 金以外、
牛保保險料並ニ戰 争保險料	一六、八三〇	
兩方事務管理費	九六、八〇〇	
人件費	六二、〇〇〇	結與、手當、賞與計 五一、五〇〇圓 ソノ他 計 九、五〇〇圓
事務費	三一、八〇〇	
事務所費	三、〇〇〇	事務所費並ニ倉庫 借賃
合計	五三九、五一〇	事務所並ニ倉庫 借賃
(附)兩發ヨリノ 借入金利子豫想額	四五、八〇〇	事業費金トシテ借入分 三七七、〇〇〇圓 家族資金及ビ事業管理費 トシテ借入予定分 五三九、〇〇〇圓

昭和貳拾年六月十日

大東亞省

兩方專務 經理課 御中

岩手縣岩手市岩園町三十五番地
六八合資會社ホルネ才物産商會
代表社員 山鹿



拜啓 益々新清神之段奉買候
隨者 社団法人兩方農林協會上りの新通藤兩線第二七號（昭和二十
年三月三十一日付）による

兩方專務ニ關スル函書

茲許添付別紙の如く及御回答候也

竊常本社は去る参月廿七日神戸にて罹災全焼サシ爲御回答方著シ
く延引の段御容致願上候

以上



一、昭和貳拾年參月末現在南方事業ニ對スル投下資本額

項目	金額	備考
物件費	四六二、六四三	五九四 大東亞戰后分
南方在勤職員経費	四九八、三六九	六三三 附員家族牛計費 南洋渡船費(含牛保) 六四、三三五・〇四
人件費	五八、九四八	〇七
事務費	六七、三六三	〇五
事務所費	一一、八四〇	二〇
計	一、一〇〇、一六四	四九 大東亞戰后分
南方事業日ノ受済金額	三六九、三八〇	九八 附員謝許済金 三〇五、三二五・〇〇 事業管理費 六四、〇五五・九八
差引南方事業勘定残高	七三〇、七八三	五一
別個ニ大東亞戰前投資額	五五四、九八三	五三
南方事業積投資額	一六五、七六七	〇三
社内利子	未付	未付

註一、本社ハ昭和二十年三月十七日神戸ニ於テ提議全焼シタル爲
帳簿不備ニヨリテ右金額ニ多少正確ナラザル所アリ

註二、右ハ陸軍々政地内ノ事業ニ對スル分ナリ



二、今後南方事業ノ爲、本邦ニ於テ必要トスル事情均經費年額關

項目	金額	備考
南方在勤職員經費	四四二、七一〇圓	現在員役員 八名 三八、一六〇圓 職員 九六名三八七、七二〇圓
當地家族生活費 (俸給、手當ノ内)	四二五、八八〇	俸給並ニ手當ノ概合計ノ内上記ノ内 地家族生活費トシテ支拂ヒ、殘金ハ現 地ニテ職員ニ支拂フ、從而内地家族生 活費トシテ支拂フモノハ除ク 金以外
牛保保險料並ニ競 争保險料	一六、八三〇	
南方事務管理費	九六、八〇〇	
人件費	六二、〇〇〇	給与、手當、賞與計 五一、五〇〇圓 ノノ他 計 九、五〇〇圓
事務新費	三一、八〇〇	
事務所費	三、〇〇〇	事務所費並ニ倉庫 借賃
合計	五三九、五一〇	事業命令トシテ借入分 三七七、〇〇〇圓 家族命令及ビ事業管理費 トシテ借入予定分 五三九、〇〇〇圓
(附) 開發ヨリノ 借入金利子豫想額	四五、八〇〇	



昭和二十年六月十一日

横濱正金銀行 頭取席
海外部次長 廣田 隆四郎

大 東 亞 省
南方事務局長 水野伊太郎

拜 啓

弊ハジヤイ派出所開設ノ件

陳者首越ハシヤイ派出所六月一日閉店致、疾間御報告申上、疾向宮桑所々任地明
細判明次第御通知申上候

敬 具

(横濱正金銀行)

南發一業〇五第四七號

昭和二十年五月十七日

南方開發金庫

總裁 佐々木 謙一郎



大東亞大臣 東郷 茂徳 殿

ジャワ支金庫ニ於ケル對銀行貸出利率改正ノ件

曩ニ昭和十九年十一月三十日附指令南經第一八九七號ヲ以テ御認可相受候當金庫現地貸出利率改正ノ件ニ關シ今般ジャワ支金庫ニ於テ對銀行貸出利率ヲ左記ノ通り改正ノ上昭和二十年四月一日ヨリ實施致候間此段及御報告候也

記

- 一、被融通銀行ノ一般預金殘高カ貸出殘ヲ超過シ居ル場合
(イ) 貸出期間 三ヶ月以内ノモノ 年三分五厘

(ロ) 貸出期間 三ヶ月ヲ超過スルモノ 年四分

二、貸出殘高カ一般預金殘高ヲ超過シ居ル場合

(イ) 貸出期間 一ヶ月以内ノモノ 年三分五厘

(ロ) 一ヶ月ヲ超過シ六ヶ月以内ノモノ 年四分

(ハ) 六ヶ月ヲ超過スルモノ 年四分五厘

三、貸出後手形返済迄ノ間ニ於テ被融通銀行ノ貸出殘高又ハ一般預金殘高ノ増減ニ依リ一又ハ二ノ適用條件ニ變更アリタル場合ト雖モ當初適用セル利率ハ之ヲ變更セス

四、一般預金及貸出ノ殘高ハ最近一ヶ月間ノ旬末平均殘高ニ依ル



20.6.13 (南發一業〇五第四七號)

16



南發一葉〇五第匹七號

昭和二十年五月十七日



南方開發金庫

總裁 佐々木 謙一郎

大東亞大臣 東郷 茂徳 殿

ジャワ支金庫ニ於ケル對銀行貸出利率改正ノ件

茲ニ昭和十九年十一月三十日附指令南發第一八九七號ヲ以テ閣下可相受
候當金庫現地貸出利率改正ノ件ニ關シ今般ジャワ支金庫ニ於テ對銀行貸
出利率ヲ左記ノ通り改正ノ上昭和二十年四月一日ヨリ實施致候間此段及
御報告候也

記

- 一、被融通銀行ノ一般預金残高カ貸出残ヲ超過シ居ル場合
イ) 貸出期間 三ヶ月以内ノモノ 年三分五厘

ロ) 貸出期間 三ヶ月ヲ超過スルモノ 年四分

二、貸出残高カ一般預金残高ヲ超過シ居ル場合

イ) 貸出期間 一ヶ月以内ノモノ 年三分五厘

ロ) 一ヶ月ヲ超過シ六ヶ月以内ノモノ 年四分

ハ) 六ヶ月ヲ超過スルモノ 年四分五厘

三、貸出後手形返済迄ノ間ニ於テ被融通銀行ノ貸出残高又ハ一般預金残

高ノ増減ニ依リ一又ハ二ノ適用條件ニ變更アリタル場合ト雖モ當初

適用セル利率ハ之ヲ變更セス

四、一般預金及貸出ノ残高ハ最近一ヶ月間ノ月末平均残高ニ依ル





◎大蔵省告示第 號

戰時特殊損害保險法施行規則第六條ノ規定ニ依リ保險料左ノ通指定シ
公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和二十年六月 日

大蔵大臣 廣 瀬 豊 作

甲 戰時特殊損害保險法（以下單ニ法ト稱ス）施行規則第一條ノ保險
ノ目的（内地ヨリ帝國外ノ地域ニ又ハ帝國外ノ地域ヨリ内地若ハ外地
ニ運送セラルル物ヲ除ク）

第一 保險ノ目的ガ第一及第三ニ掲グルモノ以外ノモノナルトキ

保 險 期 間	戰 争 保 險 料	地 震 保 險 料
一年又ハ其ノ未滿六月ヲ超ユル期間	八・〇〇	〇・五〇
六月又ハ其ノ未滿一月ヲ超ユル期間	四・〇〇	〇・二五
一月又ハ其ノ未滿	〇・八〇	〇・〇五

（保險金額千圓ニ付）

保險ノ目的ガ住家（住居及物品ノ販賣、製造其ノ他住居以外ノ用
途ニ併セ供メラルルモノ）ヲ除ク以下同ジ）又ハ家財ナル場合ニ於
テ保險金額ガ住家一戸又ハ家財一世帯ニ付五萬圓ヲ超エタルトキ
ハ其ノ超エタル部分ニ付テハ戰爭保險料ハ前記保險料ノ額ノ二倍
トス

第二 保險ノ目的ガ工場物件、倉庫物件、森林其ノ他大蔵大臣ノ定
ムル物ナルトキ、

（保險金額千圓ニ付）

保 險 期 間	戰 争 保 險 料	地 震 保 險 料
一年又ハ其ノ未滿六月ヲ超ユル期間	四・〇〇	〇・五〇
六月又ハ其ノ未滿一月ヲ超ユル期間	二・〇〇	〇・二五
一月又ハ其ノ未滿	〇・四〇	〇・〇五

第二 保險、目的の方法施行規則第一條第三項及第二條第二項に掲グルモノナルトキ

(戰爭保險料保費額千圓ニ付)

自 至	内地又ハ外地		滿洲國		第一地區		第二地區		第三地區	
	圓	角	圓	角	圓	角	圓	角	圓	角
内地	二	〇	二	〇	四	〇	七	〇	一	〇
滿洲國	二	〇	二	〇	五	〇	八	〇	一	〇
第一地區	四	〇	五	〇	五	〇	八	〇	一	〇
第二地區	四	〇	五	〇	八	〇	一	〇	一	〇
第三地區	一	〇	一	〇	一	〇	一	〇	一	〇

備考

一 保險、目的ガ甲第一、第二及乙第一ニ屬セル物一倉庫業者ガ保險契約者トシテ倉庫ニ保管スル不特定物ヲ除ケルモノナル場合ニ於テ保險、目的、所在、移轉アリタルトキハ移轉後、所在ガ保險料、低價地區ニ屬スルトキ、雖モ保險料、返還ハ之

第三 保險、目的ガ運送品ナルトキ

(保費額千圓ニ付)

戰爭保險料	一	〇	〇
-------	---	---	---

乙 法施行規則第一條、保險、目的中内地ヨリ帝國外、地域ニ又ハ帝國外、地域ヨリ内地若ハ外地ニ運送セラルル物及法施行規則第二條

第一 保險、目的

第一 保險、目的ガ法施行規則第二條第一項ニ掲グルモノナルトキ

(戰爭保險料保費額千圓ニ付)

保險期間	地 區		
	第一地區	第二地區	第三地區
一年又ハ其ノ未滿六月ヲ超ユル期間	二	四	八
六月又ハ其ノ未滿一月ヲ超ユル期間	一	二	四
一月又ハ其ノ未滿	二	四	八



ヲ爲サズ保險料ノ高キ地區ニ屬スルトキハ移轉ノ時ニ於ケル
移轉後ノ所在ノ地區ノ保險料ガ移轉前ノ所在ノ地區ノ保險料
ヲ超ユル額ニ付移轉後ノ期間ニ對シ日割ヲ以テ計算シタル額
ヲ追徴スルモノトス

二 保險ノ目的ガ運送品ナル場合ニ於テ發送地又ハ到達地ト經由
地トノ間ノ保險料ガ發送地ト到達地トノ間ノ保險料ヨリ高キ
場合ニ在リテハ其ノ最モ高キ保險料ニ依ル

三 工場物件ハ常時十人以上ノ勞務者ヲ使用スル工場又ハ事業場
ニシテ十馬力以上ノ動力設備ヲ有スルモノノ構内ニ所在スル
建物其ノ附屬設備、工作物及動産（野積ヲ含ム）トス
倉庫物件ハ左ニ掲グル建物、其ノ附屬設備及此等ニ保管セラ
ル貨物（野積ヲ含ム）トス

ノ 日本倉庫業會會員タル倉庫營業者ノ占有スル建物ニシテ
貨物保管ノ目的ニ使用セララルモノ

2 法令ニ依リ倉庫證券ヲ發行スル官廳、公法人、公益法人
又ハ組合ノ占有スル建物ニシテ貨物保管ノ目的ニ使用セ
ラルモノ

3 占有者ノ如何ニ拘ラズ倉庫營業者ノ倉庫構内ニ所在スル
建物ニシテ貨物保管ノ目的ニ使用セララルモノ

4 稅關ノ占有スル建物ニシテ貨物保管ノ目的ニ使用セララルモノ

四 第一地區ハ蒙疆、北支及中支（漢口地區ヲ除ク）トス
第二地區ハ漢口地區、南支（香港、澳門、廣州灣租借地及海
南島ヲ含ム）泰國、印度支那、マラヤ、スマトラ、シヤ
ラ、ボルネオ、セレベス及小スンダ列島中「バリ」「ロンボ
ック」「スンバワ」ノ三島トス
第三地區ハ「フィリピン」共和國、「ビルマ」國、ニユー
ギニア、モルツカ諸島及小スンダ列島（第二地區ニ屬スルモ
ノヲ除ク）トス

註一 漢口地區ハ江西省、湖北省及湖南省トス

二 南方諸地域（獨立國ヲ除ク）ニ付テハ帝國ノ軍政ヲ施行
シ居ラザル地域ヲ除ク
昭和十九年四月大蔵省告示第百七十九號、昭和十九年六月大蔵省告示
第百七十八號、昭和十九年九月大蔵省告示第百三十三號及昭和十九年
十月大蔵省告示第百六十二號ハ之ヲ廢止ス

南發發券〇五第 〇四號

昭和廿年八月五日

南方開發金庫發券部



大東亞省南方事務局
産業經濟課長殿

不用南發券ノ處理ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ陸軍省經理局主計課長ヨリ當方ノ意見照會有之候
ニ付別紙ノ通回答致置候間御了承相成度此段御報告申上候也

南方開發金庫

研-0618

0218



極秘



南支那開發金庫券第五號

昭和廿年八月四日

南方開發金庫券部長

陸軍省經理局主計課長殿

不用南發券ノ處理ニ關スル件

八月三日附經主第六三五號ヲ以テ御照會有之候南方各地區（泰、佛、印、支、台）日本側金融機關保有ノ南發券中現地軍ニ於テ無向不用ト認メタル等必要アルトキハ軍命令ニ依リ焼却等ノ方法ニヨリ之ヲ處分シ得ルコトトスルノ件ハ異存無之候處之方實施要領並ニ代リ金支拂方法等ノ決定ニ當リテハ左記御配慮相煩度此段御回答得旨候也

南方開發金庫

左記

一 南發以外ノ金融機關保有ノ南發券ノ處理ハ總テ現地軍ノ立會ノ下ニ實行セラレ且立會官ノ現認書ヲ添付スルコト

二 南發以外ノ金融機關保有ノ南發券ノ處理ハ政府ノ「戰時災害在外喪失現金損失補償措置要項」ノ適用アルベキモノト思考セラ
ルルニ付南發ノ當該金融機關ニ對スル代リ金ノ支拂ハ同措置要
項第六號第二項及第三項ニ準ジ製造費及輸送費ノ支拂ヲ受ケ
ル上適宜ノ南發券ヲ以テ之ヲ爲シ得ル事トスル事

三 前號南發以外ノ金融機關保有ノ南發券ノ處理ガ若シ政府ノ「戰時災害在外喪失現金損失補償措置要項」ノ適用外トセラルル場
合並ニ保管金等國庫金中ノ南發券處理ノ場合ノ南發ノ當該金融
機關又ハ國庫ニ對スル代リ金ノ支拂ハ適宜ノ南發券ヲ以テ爲シ
得ル事トスル事

南方開發金庫



四前號並ニ南發保有ノ南發券處理ノ場合ニ於ケル南發券ノ製造費及
輸送費ニ付テハ後日政府ニ於テ其損失補償措置ヲ講ゼラルベキ事

註 右損失補償ハ豫テ大東亞省ニ於テ考慮セララル事トナリ居
ル南發ノ事業全般ニ對スル政府ノ損失補償措置事項中ニ包
含セララルベキ事

南 方 開 發 金 庫

研-0618

0220

南産 1/2
(20. 8. 7)



南産業(五)第五之三號

昭和二十年七月三十一日

大東亞省
南方事務産業經濟課長 殿

南方開發金庫
業務部長 藤松 正 意



拜啓益々御清祥奉賀候
陳者當金庫内地融管一覽表(五月末日現在) 茲許同封御送附申上
候間御査収被下度候

南方開發金庫

融算關係分

内地融算實行一覽表

(昭和二十年五月末日現在)

(單位千圓)

貸付先	契約金額	貸付残高	五月中實行額
浅野重工業株式会社	一、二五〇	一、二五〇	〇
浅野重工業	一、一六四	一、一五〇	〇
青柳鋼材興業	一、二〇〇	一、〇〇〇	〇
亞細亞バルブ	三、三一一	二、七三一	〇
浅野セメント	四、一六一	一、五〇〇	〇
安宅産業	六、〇〇〇	五、三九五	〇
石原造船	四七〇	四七〇	〇
株式会社伊勢丹	二九二	二九二	〇
岩井産業株式会社	七二〇	五〇〇	〇
石原産業	一六、七一一	一一、九九二	〇
磐城セメント	一、一五四	一、〇〇〇	〇

石井精密工業株式会社	三、五〇〇	二、〇〇〇	〇
一三六工機	五七	五七	〇
株式会社荏原製作所	七七五	四〇〇	〇
社団法人映画配給社	六、一七八	六、一七八	〇
永福産薬公司	一、九五〇	一、四五〇	〇
王子製紙株式会社	一、〇七九	一、〇七九	〇
大阪商船	四、七六二	四、七六二	〇
大分南洋興業	三〇〇	三〇〇	〇
大分鐵板製造	一、三二〇	一、一七八	〇
小田原製紙	一、五二二	一、五〇一	〇
小野産薬公司	五四七	五四七	〇
菅戸造船株式会社	三〇〇	三〇〇	〇
太田興業	二〇八	二〇八	〇
加藤興業	一、四六八	一、四六八	〇
香川ビルマ出漁組合	九三五	九三五	〇

香川南洋興業株式会社	九八〇	八〇〇	〇
協和煙草	一・九四六	一・九四六	〇
協和煙草	三・五〇〇	三・〇〇〇	〇
合資會社 久保田製油工場	六七八	六七八	〇
桑正合名會社	一三四	一三四	〇
有限會社 皇道産業燃淨院	七・六九一	七・六九一	〇
國際電氣通信株式會社	二五〇	二五〇	〇
合同酒糟	八・三三〇	六・九七二	〇
江商	二・二〇〇	一・八五〇	三五〇
坂口興産	四・五六五	四・一〇五	〇
有限會社 島本造船所	五五七	五四一	〇
神樂水才興業株式會社	九四四	六〇〇	〇
株式會社 下宮商店	一・七九七	一・七八五	〇
昭和農産化工株式會社	七・一七〇	六・五〇五	〇
ジャワ運輸會社	一・二〇〇	一・〇〇〇	〇

白木産業株式會社	五一〇	三〇〇	三〇〇
任友興業株式會社	一・〇三四	一・〇三四	〇
任友興産	一・六五〇	一・六五〇	〇
石油聯合	一・二〇〇	一・二〇〇	〇
石産精工	一六・四三〇	一四・五一五	四二〇
精榮商會 糸川精七	四八二	四八〇	〇
高島屋飯田株式會社	四〇〇	四〇〇	〇
株式會社 臺灣鐵工所	一・〇〇〇	一・八〇〇	〇
臺灣パルプ工業株式會社	三・八〇五	三・三〇五	〇
高岡水産	二・二三五	二・二三五	〇
高砂麥酒	六六三	六六三	〇
臺灣製糖	八・七三〇	二・九七一	〇
大日本印刷	五〇〇	一〇〇	〇
大東亞興業	五・〇三四	五・〇三四	〇
大東造船	三・〇〇〇	二・一五〇	〇

大日本再生製紙株式会社	二・三九八	二・三九八	〇
タワ才産業	四八二	四八二	〇
株式会社資源ホテル	一〇六	一〇六	〇
太平洋鑛業株式会社	一二九	一〇〇	〇
中部配電	〇	〇	三・三〇〇
朝鮮皮革	三・六八〇	二〇〇	〇
帝國皮革工業	二五〇	二五〇	〇
帝國絨織	一・一四〇	一・一四〇	〇
東亞興産	九六四	八二二	一五〇
東山産業	七・二一九	七・二一九	〇
東洋鋼山	三三〇	三三〇	〇
東京麻糸紡績	四・六五〇	一・三三〇	〇
東島製纈	五・八二九	五・八二九	二・二七〇
東亞交通協會	三・二七〇	一・三三〇	五〇〇

南方運輸會社	一六・六八〇	一六・六八〇	〇
南興水産株式会社	六〇九	六〇九	〇
南方水産興業	二・〇六三	二・〇六一	二五〇
南國企業	一・二三七	一・二三七	〇
南方木船所(東洋茂)	二・〇〇〇	六・〇〇〇	二〇〇
南方製草木造船組合	二〇・〇〇〇	三・五〇〇	〇
日本油機製造株式会社	二・三〇一	二・三〇一	〇
社団法人日本映畫社	一・八四五	一・四〇五	〇
日商産業株式会社	一・五〇〇	一・五〇〇	〇
日本木材工業	一五〇	一五〇	〇
日産農林工業	二・五一八	二・五一八	〇
株式會社日本ドラム製造所	一・〇〇〇	七〇〇	〇
日糖興業株式会社	四・四七九	二・五〇〇	〇
日東工礦業株式会社	五・八〇〇	五・八〇〇	〇

日比企業株式會社	五八一	五五九	三二
日比興業	九五〇	九五〇	〇
日本鋼管	一六・九四六	五・五〇〇	〇
日本塗料肥料	三一九	二〇〇	〇
日精實業	一・二五〇	六四五	〇
日本油脂	二・三三〇	二・三三〇	〇
日本漁網器具	四〇〇	四〇〇	〇
日本輕金屬	二四・二四六	一五・二四六	〇
日南製織	二・八四六	二・六六八	〇
日南造船機械	一六・七八三	二四・〇九四	一三六
日本コンクリートボール	七五五	五五〇	〇
株式会社日進ベニヤ製作所	三五三	三五三	〇
日本縫製工業株式會社	一・〇〇〇	一・〇〇〇	〇
仁部藏太	一八〇	一八〇	〇

日本操草製造株式會社	七九六	七九六	〇
野村軍用履造	二・三〇〇	一・〇〇〇	〇
株式會社 林象商店	九・五三三	九・五三三	〇
光製作所	九〇〇	九〇〇	〇
古川製鋼所古川長雄	二五五	二五五	〇
古河鑛業株式會社	九・五八七	八・五〇〇	〇
福泉食品工業	二五三	二五三	〇
富士瓦斯紡績	六・五〇三	五・五〇二	〇
古川托殖	二二九	二二九	〇
米屋産業株式會社	二六一	二六一	〇
本嘉納企業	一五・二九二	一・八〇〇	〇
本多喜八郎	六一三	六三	〇
ホルネオ殖産株式會社	九九	二九	〇
ホルネオ産業	一一・二四三	六・八〇〇	〇
ホルネオ水産	九六一	八七〇	一〇〇

株式會社 丸玉	一〇〇〇	一〇〇〇	〇
丸 永株式會社	四六二	四六二	〇
増成動力工業	一〇〇〇	六八一	〇
株式會社 丸ノ内ホテル	七九	七九	七九
株式會社 光村原色版印刷所	四五〇	三五〇	〇
三菱商事株式會社	五、一〇〇	四、四九五	〇
三井物産	一〇、一三五	八、九一八	〇
株式會社 宮田製作所	二六七	二六七	〇
三菱製紙株式會社	三、四五〇	三、一五〇	〇
三菱電機	二、一三七	二、一三七	〇
南日本汽船	四、一二二	二、八三三	〇
三國商工	八九	八九	〇
明治製糖	五、三五〇	二、〇〇〇	〇
元山運輸商會	八八四	八八四	〇
株式會社 山口自動車工場	三〇〇	三〇〇	〇
山野製紙所 嶋田養之輔	二、〇八七	二、〇八七	〇

山下汽船株式會社	二六〇	二六〇	〇
小計	四三一・二四一	三一八・五〇三	三四・五九一六

内地融資実行一覽表（昭和二十年五月末日現在）

海軍關係分

貸付先	契約金額	貸付残高	五月中実行額
亞細亞バルブ株式会社	九二七	九二七	〇
藤生鑛業	五、三一八	五、三一八	〇
岩井産業	四七四	四七四	〇
石原産業	一三、〇〇〇	五、二一五	〇
井筒物産洋行	六、〇〇五	三、八四四	〇
小野田セメント製造株式会社	三、五五四	三、〇〇六	〇
鐵道工業	四、五八六	四、五八六	一、二二六
加奈木工業	三、二五七	三、二五七	〇
共榮興業	一、八〇〇	一、八〇〇	〇
興南林業	五五八	五五八	〇

（單位千圓）

興南組金子番藏	二、八〇四	二、五〇〇	〇
興南棉花株式会社	五五〇	四五〇	〇
興南海運	二、一七〇	二、一七〇	〇
國際運輸	一、四一四	一、四一四	〇
三興南方殖産	五〇〇	五〇〇	〇
品川白煉瓦	一五〇	一五〇	〇
新南興業	四、六二九	四、四九二	一〇〇
株式会社昭和工作所	五四六	五四六	〇
島田台資會社	六、〇〇〇	五、八四〇	〇
昭和護謨株式会社	一、五〇二	五〇〇	〇
任友鑛業	一三、一八二	七、七一四	〇
株式会社阴田組	三〇九	三〇九	〇
拓南興業株式会社	七〇〇	三八〇	三三〇
太洋水産	五一六	五〇〇	〇
株式会社棚橋組	一、〇〇〇	五〇〇	〇

大東振興株式會社	一、一〇六	一、一〇六	〇
大建産業	二、三五〇	二、〇五〇	〇
大和航運	一、六九八	一、三二二	〇
大日本油脂	二、六六二	二、六六二	〇
東洋林業公司	八七一	八七一	〇
東亞鐵工株式會社	八、二四一	五、七〇三	〇
東北振興水産	八、〇〇〇	八、〇〇〇	〇
東印度水産	四、九一九	四、九一九	〇
廣賀汽船	三、四九三	三、四三九	〇
南洋興産	一八、六五六	一三、九九六	一、五六七
南興水産	三、六〇〇	三、一八二	〇
廣亞企業	七、九六五	七、九六五	〇
南洋タンニン開發興業	一、二七〇	一、二七〇	〇
洋倉庫	三七二	三七二	〇

南洋貿易海運船新井洋行	二、六一九	二、六一九	一六六
日本製鐵株式會社	六四、〇〇〇	五〇、〇〇〇	〇
日本木材造船	七五八	七五八	〇
日本タンニン工業	五七〇	五七〇	〇
日東海運	二、八三九	二、八一二	〇
日本共立興業	四、四一三	四、四一三	〇
野村東印度殖産	四、六七〇	四、六七〇	〇
日丸航運	一、八四五	一、八四五	一、二五〇
廣敷殖産	九一	九一	〇
百川殖産	八七一	四〇六	〇
米星産業	一〇〇	五〇	一〇六
ボルネオ造船	八四五	八四五	〇
合資會社ボルネオ物産商會	七二〇	三〇〇	〇
ボルネオ水産株式會社	八九五	八七九	一三五

マカッサル水産 株式会社	四八三	四八三	四八三
南太平洋貿易	六、七六二	六、六六二	〇
三菱商事	二〇〇	二〇〇	〇
メナド造船	四、七九九	三、一一六	〇
小計	二四八、三八四	一九四、五二六	二、一五六 三、一三七
合計	六八〇、六二五	五一三、〇二九	七、〇七一 四、六五九

研-0618

0229

Handwritten mark at the top right of the document.

Handwritten mark in the middle right of the document.

拜啓 今般スマトラ、テルツクベトン及タンジョンカラン合併ノ上ランボ
ン市トナレルニ伴ヒ、弊行出張所及分室所在地左ノ通り變更相成候旨入董有
之候ニ付御届申上候
尙差當リ店名ハ變更ノ要無之由ニ御座候

左記

テルツクベトン出張所 ランボン市テルツクベトン區番地ナシ
同 分 室 ランボン市タンジョンカラン區番地ナシ

以上

昭和二十年七月十三日

大東亞大臣 東郷茂徳 殿



正金銀行
取 荒川 昌



南 113
(20.8.7) 南
20129.

昭和二十一年七月三十一日

大東亞大臣 東郷 茂徳 殿

南方 照 整 陸 軍
總裁 佐々木 謙 一



外資金庫預ケ金ニ關スル件

昭和二十一年三月一日附當金庫ト外資金庫トノ間ニ締結セル預金契約書
ニ基キ昭和二十一年七月三十一日同金庫ニ對シ金拾億圓也預入致候事
此後及御報告候也

昭和二十年七月十七日 在盤岩 山本大使 發
東郷大臣 宛

盜難紙幣 二系下ル

昭示ヲ新送中 六編取セラルル 紙幣 羽田 九、如、判、明、ス
内地製 一〇 紙 二 箱 四〇〇 (單位 千枚以下 略) 四〇〇 (單位
千枚)

大日本帝國政府